

あつまれ★今を見つめて明日を変えよう!
再生可能エネルギー世界フェア
2010



第5回新エネルギー世界展示会

RENEWABLE ENERGY 2010

INTERNATIONAL EXHIBITION

再生可能エネルギー2010 国際会議併設展示会

2010年6月30日(水)~7月2日(金) 10:00~17:00

- 会場：パシフィコ横浜
- 主催：再生可能エネルギー協議会
- 同時開催： 太陽光発電に関する総合イベント
PVJapan2010



<http://www.renewableenergy.jp>

報告書



政策
Policy



太陽光発電
Photovoltaic



太陽熱利用
Solar Thermal
Utilization



省エネルギー建築
Low Energy
Architecture



風力
Wind Energy



バイオマス
Biomass Utilization
& Conversion



水素・燃料電池
Hydrogen &
Fuel Cell



海洋エネルギー
Marine Energy



地熱エネルギー
Geothermal
Energy



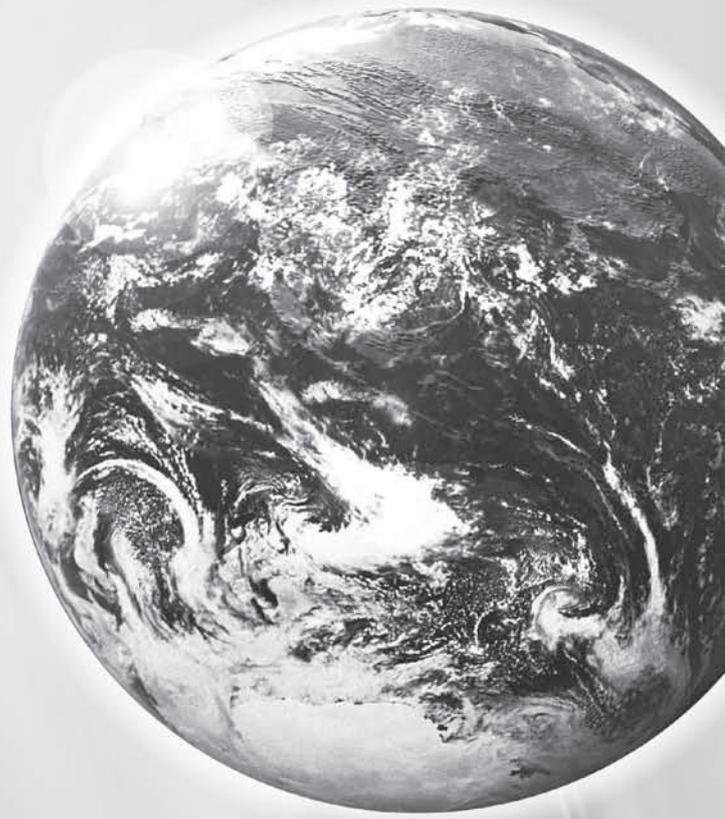
新電力システム
Advanced Power
System



省エネルギー・熱利用
Heat Utilization &
Energy Efficiency



中小水力・非利用エネルギー
Small Hydro &
Non-Conventional Energy



CONTENTS

会場風景	2
開催概要	3
結果報告	4
開会式	5
出展者一覧	6
PVJapan出展者一覧	9
会場図	10
基調講演	12
併催フォーラム	14
併催イベント	16
来場者分析	22
来場者アンケート	24
出展者アンケート	27
広報活動	32
広告見本	36
次回予告	38

会場風景



開催概要

2010年6月30日(水)～7月2日(金)

パシフィコ横浜

主催：再生可能エネルギー協議会

共催：国際太陽エネルギー学会、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、
独立行政法人産業技術総合研究所、財団法人新エネルギー財団、日本太陽エネルギー学会、
日本風力エネルギー協会、財団法人名古屋産業科学研究所

後援：経済産業省、環境省、国土交通省、農林水産省、文部科学省、総務省、内閣府、東京都、横浜市

協賛：電気事業連合会、社団法人日本電機工業会、社団法人日本自動車工業会、石油連盟、社団法人日本ガス協会、
社団法人日本鉄鋼連盟、社団法人日本建設業団体連合会、社団法人電子情報技術産業協会、
一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会、社団法人日本水道工業団体連合会、社団法人日本機械学会、
社団法人応用物理学会、社団法人電気学会、社団法人日本化学会、社団法人日本建築学会、
社団法人空調・衛生工学会、社団法人電気化学会、社団法人化学工学会、社団法人日本エネルギー学会、
社団法人日本半導体製造装置協会、独立行政法人国立環境研究所、独立行政法人海洋研究開発機構、
独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人海上技術安全研究所、独立行政法人港湾空港技術研究所、
独立行政法人国際農林水産業研究センター、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構、
財団法人高橋産業経済研究財団、財団法人省エネルギーセンター、財団法人エンジニアリング振興協会、
財団法人地球環境産業技術研究機構、財団法人日本科学技術振興財団、一般社団法人エネルギー・資源学会、
サステナビリティ学連携研究機構、日欧産業協力センター、リニューアブルエネルギー有効利用・普及促進機構、
財団法人エネルギー総合工学研究所、財団法人日本エネルギー経済研究所、一般社団法人太陽光発電協会、
太陽光発電技術研究組合、社団法人ソーラーシステム振興協会、社団法人住宅生産団体連合会、
財団法人建築環境・省エネルギー機構、社団法人日本建築家協会、一般社団法人日本風力発電協会、
風力発電事業者懇話会、日本小形風力発電協会、日本風工学会、風力発電推進市町村全国協議会、自然エネルギー協会、
社団法人アルコール協会、社団法人日本有機資源協会、国際農業工学会、アジア・バイオマス協議会、
水素エネルギー協会、燃料電池開発情報センター、財団法人日本自動車研究所、燃料電池実用化推進協議会、
海洋エネルギー・資源利用推進機構、社団法人日本船舶海洋工学会、日本海洋工学会、日本沿岸域学会、
日本地熱学会、日本地熱開発企業協議会、特定非営利活動法人地中熱利用促進協会、一般社団法人日本地下水学会、
財団法人電力中央研究所、財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター、社団法人日本熱供給事業協会、
世界省エネルギー等ビジネス推進協議会、社団法人日本冷凍空調学会、社団法人日本冷凍空調工業会、
ターボ機械協会(順不同)

協力：フジサンケイ ビジネスアイ

結果報告

再生可能エネルギー世界フェア2010

出展社数：450社・団体920小間(内海外67社)

来場者数

日付	天気	来場者数
6月28日(月)～7月2日(金)		国際会議 3,580名
6月30日(水)	曇り	12,189名
7月1日(木)	晴れ時々曇り	13,378名
7月2日(金)	晴れ	15,143名
合計		44,290名



再生可能エネルギーフェア2010は、下記の3イベントで構成されました。



再生可能エネルギー2010 国際会議
 2010年6月27日(日)-7月2日(金)
 主催：再生可能エネルギー2010国際会議組織委員会
www.re2010.org



第5回 新エネルギー世界展示会
 2010年6月30日(水)-7月2日(金)
 主催：再生可能エネルギー協議会
www.renewableenergy.jp



太陽光発電に関する総合イベント
PVJapan 2010
 2010年6月30日(水)-7月2日(金)
 主催：一般社団法人 太陽光発電協会、SEMI
www.pvjapan.org

再生可能エネルギー2010 国際会議

2006年以来4年ぶりに開かれた国際会議には65カ国から1,360名の参加があり、6月27日(日)～7月2日(金)の6日間で行われた。世界から20名の招待講演、討論会など連日全ての会議場を使い行われた。併行して、開催されたMETI/NEDOのIEA・IRENAが加わった特別セッション、NEDO、AIST、NEFのセッション、横浜市フォーラム、専門分野別及び国内外主要大学のワークショップ、主要企業セミナーなど連日満席で大変盛況であった。又、共催のISES国際理事会も26日(木)～29日(火)かけて連日行われた。

● 国際会議参加者数と国別・地域別数

国・地域	RE2006	RE2010	
		(国数)	
日本	804	(1)	920
アジア	116	(19)	264
ヨーロッパ	70	(20)	77
北米	28	(2)	34
オセアニア	8	(5)	24
アフリカ	15	(8)	15
中近東	4	(4)	12
中南米	6	(6)	7
ロシア	12	(1)	6
	1,063	(66)	1,359

アジア	RE2010
韓国	69
台湾	55
中国	42
タイ	38
インドネシア	16
シンガポール	10
インドネシア	9
マレーシア	6
その他11カ国	19
合計	264

● 一般論文発表の分野別一覧

分野	オーラル	ポスター	合計
I. 政策	28	16	44
II. 太陽光発電	55	116	171
III. 太陽熱利用	39	38	77
IV. 省エネ建築	30	30	60
V. 風力	79	64	143
VI. バイオマス	70	56	126

分野	オーラル	ポスター	合計
VII. 水素・FC	26	28	54
VIII. 海洋	22	14	36
IX. 地熱	27	20	47
X. 新電力	25	18	43
XI. 省エネ熱利用	35	21	56
XII. 中小水力他	23	7	30
合計	459	428	887

開会式

日時：6月30日（水）10：00～10：40

会場：パシフィコ横浜 会議センター1F メインホール

1)主催者挨拶

- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| ・再生可能エネルギー2010国際会議 組織委員長 | 柏木 孝夫氏（東京工業大学 教授） |
| ・再生可能エネルギー2010国際会議 共催者代表挨拶 | デービッド・レネ氏（ISES 会長） |
| ・再生可能エネルギー国際展示会主催者 兼 JCRE 代表 | 黒川 浩助氏（東京工業大学 特任教授） |
| ・PVJapan 主催者挨拶 JPEA 理事 | 永澤 淳氏
（三菱電機（株） 太陽光発電システム事業部長） |

2)来賓挨拶

- | | |
|------------------|--------|
| ・経済産業省 大臣官房総括審議官 | 上田 隆之氏 |
| ・横浜市 副市長 | 山田 正人氏 |

3)テープカット

10名の登壇者により行われた。



中央右から：上田隆之氏、山田正人氏、ヒューゴ・ルーカス氏（IRENA）、ハンス・ヨルゲン・コッホ氏（IEA）
中央左から：柏木孝夫氏、黒川浩助氏、デービッド・レネ氏、永澤 淳氏、スタンリー・マイヤーズ氏（SEMI）、
横山伸也氏（JCRE）、以上10名によりテープカット。

来賓視察

- | | |
|----------------------------------|--------------------|
| ・経済産業省 大臣官房総括審議官 | 上田 隆之氏 |
| 資源エネルギー庁長官 | 石田 徹氏 |
| 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部長 | 齋藤 圭介氏 |
| ・経済産業省 産業技術環境局 基準認証 東南アジア5カ国ご一行様 | 14名 |
| ・IEA 再生可能エネルギー技術展開部門 責任者 | ハンス・ヨルゲン・コッホ氏 |
| ・IRENA プログラムマネージャー | ヒューゴ・ルーカス氏 |
| ・ISES 会長 | デービッド・レネ氏 他全世界理事9名 |
| ・スコットランドグラスゴー大学、他欧州ゼロエネミッションご一行様 | 27名 |

出展者一覧

出展者名	小間番号	種別																								
		政策	太陽光発電	太陽熱利用	省エネルギー建築	風力	バイオマス	水素・燃料電池	海洋エネルギー	地熱エネルギー	新電力システム	省エネルギー・熱利用	中小水力、未利用エネルギー	温度差利用	コージェネレーション	クリーンエネルギー自動車	超電導	通信	雪氷熱利用	環境保全・計測・測定・分析	環境金融関連商品、支援制度	NPO、NGO	その他、書籍等	電池・電力貯蔵・輸送システム	新製品発表	
愛知県	R-A604	●	●			●	●	●								●	●								●	
(株) アクセス	R-B411																								●	
(株) アトム環境工学/オーベントロップ	R-A401			●					●		●	●	●													
イーシー21	R-A212		●	●																	●					
イタリア貿易振興会 東京事務所	R-A618	●																								
International Science and Technology Center / Borekov Institute of catalysis SB RAS, Tambov State Technical University / Ioffe Physico-Technical Institute RAS, Kyrgyz-Russian Slavonic University.	R-A605			●	●		●	●		●			●				●							●	●	
インテگران (株) / バイコージャパン (株) / (株) ウインドレンズ	R-A305		●			●																				
英弘精機 (株)	R-B408		●	●		●																				●
英国大使館	R-A615	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●				●				●	
英国北東イングランド経済開発公社	R-A617				●	●		●	●							●										
A-WING インターナショナル (株) / (株) ソアエ	R-A310					●																				
エクソンモービル (有)	R-B405					●	●									●										
(株) エヌ・ティー・エス	R-A415																							●		
Embassy of Canada / Province of Ontario / Province of Quebec / Province of British Columbia	R-A507	●	●	●	●	●																				●
(株) 大阪テクノクラート	R-A403			●																						
オーストラリア キーンズランド州政府	R-A606	●	●	●	●	●	●														●					
(有) オーツー	R-A410		●	●	●		●				●															●
(株) オリテックス / (株) WINPRO	R-A309		●			●																				
独立行政法人 海洋研究開発機構	R-A203	●																								
川崎重工業 (株)	R-B501		●	●		●	●					●														●
(株) 環境新聞社	R-A417																							●		
(株) 技術調査会	R-A407																							●		
北九州市 / 響灘地区開発推進協議会	R-B505	●				●																		●		
ゲンゼ (株) / (株) エネテック総研	R-A210					●		●	●		●			●												
(株) コクホ	R-A611									●		●														●
駒井鉄工 (株)	R-A308		●			●																				
コマツリフト (株)	R-B608										●															
コンサーバルエンジニアリング社 日本事務所	R-A413		●	●	●						●				●											
独立行政法人 産業技術総合研究所	R-B305	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●				●						
GL ガラードハッサン	R-B510	●	●		●			●													●					
(株) CDM コンサルティング	R-A501					●																				
J-POWER (電源開発)	R-B508					●	●																			

出展者名	小間番号	種別																							
		政策	太陽光発電	太陽熱利用	省エネルギー・建築	風力	バイオマス	水素・燃料電池	海洋エネルギー	地熱エネルギー	新電力システム	省エネルギー・熱利用	中小水力、未利用エネルギー	温度差利用	コージェネレーション	クリーンエネルギー自動車	超電導	通信	雪氷熱利用	環境保全・計測・測定・分析	環境金融関連商品、支援制度	NPO、NGO	その他、書籍等	電池・電力貯蔵・輸送システム	新製品発表
独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構	R-B201	●	●		●	●	●	●			●	●			●	●	●							●	
NPO法人 太陽光発電所ネットワーク	R-A205		●																				●	●	
地域エネルギー・温暖化対策推進会議／ 経済産業省 関東経済産業局／ 環境省 関東地方環境事務所	R-B101	●																							
NPO法人 地中熱利用促進協会	R-A601	●							●		●	●	●										●		
(株) 寺田鉄工所	R-A414		●								●														
デンマーク王国大使館	R-A607	●			●	●					●		●	●										●	
(財) 電力中央研究所	R-A509	●					●	●	●	●	●	●					●	●		●				●	
ドイツ NRW.INVEST	R-A609	●	●	●	●	●	●	●	●	●					●	●				●					
ドイツパビリオン／ Germany, Federal Republic of - Federal Ministry of Economics and Technology	R-B601	●	●	●		●	●	●		●															
ドイツパビリオン／ German Trade and Invest	R-B601																							●	
東京ガス(株)／(社) 日本ガス協会	R-B401	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●				
東京電力(株)／東京発電(株)／東電設計(株)／ 日本自然エネルギー(株)／ (株) ユーラスエナジーホールディングス	R-B206		●			●					●					●									
栃木県／栃木県企業立地促進協議会	R-A603	●																					●		
(株) 日刊工業新聞社	R-A416																						●		
日経BP社	R-A419																						●		
ニッコー(株)	R-A301					●					●														
日本ガイシ(株)	R-B606										●													●	
日本工営(株)	R-A201											●													
(株) 日本製鋼所	R-B507					●																			
日本ソーラーッキング協会	R-A204			●							●												●		
日本地熱開発企業協議会／地熱技術開発(株)／ 地熱エンジニアリング(株)	R-A602								●																
日本ナショナルインスツルメンツ(株)	R-B308																			●					
BDI-BioDiesel International AG / Pfintech Inc.	R-A502						●																	●	
(財) ヒートポンプ・蓄熱センター	R-A405	●		●							●														
光と水のエネルギー広場 in 横浜／NPO法人ワー カーズコープエコテック／紙敷自然塾／ガンコ山 ／自然エネルギー推進市民フォーラム(REPP)／ NPO法人足元から地球温暖化を考える市民ネット えどがわ／NPO法人東京湾市民風力／森のエネル ギー研究所／日本ソーラーエネルギー教育協会	R-A214	●	●	●	●	●	●			●	●	●		●						●			●	●	
日立グループ／(株) 日立製作所／ (株) 日立産機システム／新神戸電機(株)／ 日立GEニュークリア・エナジー(株)	R-B301		●			●																		●	

出展者名	小間番号	種別																								
		政策	太陽光発電	太陽熱利用	省エネルギー建築	風力	バイオマス	水素・燃料電池	海洋エネルギー	地熱エネルギー	新電力システム	省エネルギー・熱利用	中小水力、未利用エネルギー	温度差利用	コージェネレーション	クリーンエネルギー自動車	超電導	通信	雪氷熱利用	環境保全・計測・測定・分析	環境金融関連商品、支援制度	NPO、NGO	その他、書籍等	電池・電力貯蔵・輸送システム	新製品発表	
富士フィルター工業(株)	R-B410		●	●			●	●						●		●										
三井造船(株)	R-A409			●		●	●								●										●	
三菱重工業(株)	R-B106	●	●	●	●	●	●			●	●			●	●				●	●				●		
(株)モトヤマ	R-A411						●			●	●													●		
モンタナ興業(株)	R-A303		●			●																			●	
文部科学省 地域イノベーションクラスタープログラム京都環境ナノクラスター(財団法人 京都高度技術研究所) / イビデン(株) / イビデン樹脂(株) / (株)セベック / (株)エコニカル / (有)加藤商会 / バイオマス・ジャパン(株)	R-A202		●				●	●			●									●				●		
横浜市 / かがつう(株) / (株)五常 / ナノマイザー(株) / (株)ベイサン / (株)先端技術情報総合研究所 / グエラテクノロジー(株) / (財)横浜企業経営支援財団	R-B104	●	●	●		●	●	●			●					●								●	●	
ループウイング(株)	R-A312					●			●			●														
寧波風神風電科技有限公司	R-A302					●																				
Muyang Biomass Engineering Co.	R-A612						●																			

アカデミックエリア

出展者名	小間番号
愛知工業大学 エコ電力研究センター	RE-03
大阪府立大学 エネルギーシステム工学研究室	RE-21
北九州市立大学	RE-06
九州大学大学院 工学研究院 地球熱システム学研究室	RE-14
(財)群馬県産業支援機構	RE-05
慶應義塾大学 理工学部 エネルギー環境システム研究室	RE-08
独立行政法人 国立環境研究所	RE-12
千葉科学大学 危機管理学部 安藤研究室	RE-20
千葉大学大学院 工学研究科 建築・都市科学専攻 小倉研究室	RE-10

出展者名	小間番号
(財)電力中央研究所	RE-04
東京電機大学 工学部 電気電子工学科 ドライブシステム研究室	RE-19
東京理科大学 工学部工業化学科 桑野研究室	RE-07
徳山工業高等専門学校 機械電気工学科	RE-17
豊橋創造大学	RE-16
日本地熱学会	RE-11
弘前大学 北日本新エネルギー研究センター	RE-13
三重大学 エネルギー環境工学研究室	RE-18
宮城大学 食産学部 矢野研究室	RE-09

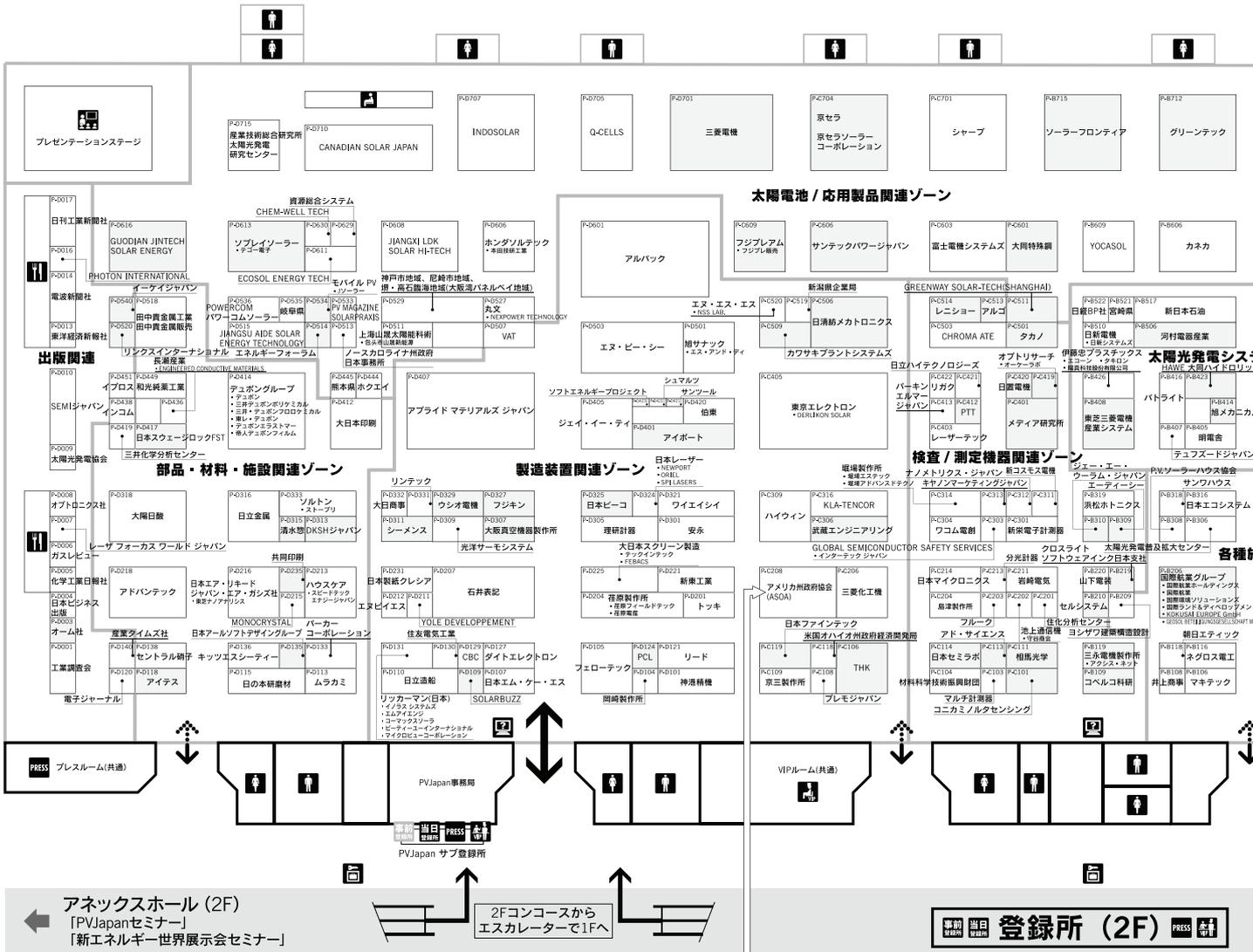
PVJapan 出展者一覧 (五十音順)

CANADIAN SOLAR JAPAN K.K.	P-D710	共同 ORIEL	P-D324	大同特殊鋼 (株)	P-C601	HAWE 大同ハイドロリック (株)	P-B423
CHEM-WELL TECH CO., LTD.	P-D630	米国オレゴン州政府駐日代表部	P-C208-06	ダイトエレクトロニクス (株)	P-D127	(株) ハウスケア	P-D213
CHROMA ATE INC.	P-C503	(株) 化学工業日報社	P-D005	共同 ダイドーハント	P-B201	伯東 (株)	P-D420
ECOSOL ENERGY TECH CO., LTD.	P-D611	(株) ガスレビュー	P-D006	大日商事 (株)	P-D332	共同 長谷川電機工業 (株)	P-B301
共同 ENGINEERED CONDUCTIVE MATERIALS, LLC	P-D436	金沢大学理工研究域物質化学系	PV-13	大日本印刷 (株)	P-D412	(株) パトライト	P-B416
共同 GEOSOL BETEILIGUNGSGESELLSCHAFT MBH	P-B206	(株) カネカ	P-B606	大日本スクリーン製造 (株)	P-D225	パナソニック (株)	P-B706
Greenway Solar-Tech Co., Ltd. (shanghai)	P-C511	カワサキプラントシステムズ (株)	P-C509	(社) 太陽光発電協会	P-D009	パナソニック電工 (株)	P-B706
GUODIAN JINTECH SOLAR ENERGY CO., LTD.	P-D616	河村電器産業 (株)	P-B506	共同 一般財団法人 太陽光発電工事専門校	P-B201	浜松ホトニクス (株)	P-B319
JIANGSU AIDE SOLAR ENERGY TECHNOLOGY CO., LTD.	P-D515	(株) キッツエスシーティー	P-D136	太陽光発電普及拡大センター	P-B306	パワーコムソーラー (株)	P-D536
JIANGXI LDK SOLAR HI-TECH CO., LTD.	P-D608	岐阜県	P-D535	太陽日酸 (株)	P-D318	PCL (株)	P-D124
KLA-TENCOR CORP.	P-C316	岐阜大学未来型太陽光発電システム研究センター	PV-04	タカノ (株)	P-C501	PTT (株)	P-C412
MONOCRYSTAL PLC.	P-D215	キャンノンマーケティングジャパン (株)	P-C313	共同 タキロン (株)	P-B426	共同 ビーティーユーインターナショナル, インク	P-D131
共同 NSS LAB., INC.	P-C520	九州工業大学 和泉研究室	PV-19	田中貴金属工業 (株)	P-D518	P.V.ソーラーハウス協会	P-B308
共同 OERLIKON SOLAR	P-C405	九州工業大学 早瀬研究室	PV-17	田中貴金属販売 (株)	P-D518	日置電機 (株)	P-C420
PHOTON INTERNATIONAL	P-D016	(株) 京三製作所	P-C109	中部大学・工学部・梅野・内田研究室	PV-14	日立金属 (株)	P-D316
POWERCOM CO., LTD.	P-D536	京セラ (株)	P-C704	長州産業 (株)	P-B503	日立造船 (株)	P-D110
POWERWAY MOUNTING SYSTEM	P-B101	(株) 京セラソーラーコーポレーション	P-C704	THK (株)	P-C106	(株) 日立ハイテクノロジーズ	P-C421
PV MAGAZINE Solarpraxis AG	P-D533	共同印刷 (株)	P-D235	DKSHジャパン (株)	P-D313	日の本研磨材 (株)	P-D115
Q-Cells SE	P-D705	京都大学エネルギー理工学研究所・生春園研究所	PV-12	共同 帝人デュボンフィルム (株)	P-D414	共同 (株) FEBACS	P-D225
上海山晟太陽能科技有限公司	P-D511	熊本県	P-D445	共同 テコー電子 (株)	P-D613	(株) フェローテック	P-D105
Tigo Energy Inc.	P-B204	グリーンテック (株)	P-B712	共同 (株) テックインテック	P-D225	(株) フジキン	P-D327
Upsolar Co., Ltd.	P-B601	GLOBAL SEMICONDUCTOR SAFETY SERVICES	P-C303	米国防務省	P-C208-08	富士スレート (株)	P-B419
共同 (株) アールビルド	P-B311	光洋ソフトウェアインク日本支社	P-B219	テフズードジャパン (株)	P-B407	富士電機システムズ (株)	P-C603
共同 (株) アールビルド	P-B311	(株) 工業調査会	P-D001	共同 デュボン (株)	P-D414	フジプレアム (株)	P-C609
(株) アイテス	P-D118	神戸市地域、尼崎市地域、堺・高石臨海地域	P-D529	共同 デュボンエラストマー (株)	P-D414	共同 フジプレアム (株)	P-C609
アイポート (株)	P-D401	(大阪湾パナールベイ地域)	P-D529	デュボングループ	P-D414	(株) フルーク	P-C203
共同 アクシス・ネット (有)	P-B119	光洋サーモシステム (株)	P-D309	(株) 電子ジャーナル	P-D120	ブレモジャパン	P-C108
朝日エディック (株)	P-B118	共同 コーマックスソーラー	P-D131	(株) 電波新聞社	P-D014	分光計器 (株)	P-C213
旭サナック (株)	P-D501	共同 国際環境ソリューションズ (株)	P-B206	桐蔭横浜大学 宮坂研究室	PV-16	ベンシルベニア州 地域振興・経済開発省	
(株) 旭メカニカル	P-B414	共同 国際航業 (株)	P-B206	東京エレクトロニクス (株)	P-C405	日本投資事務所	P-C208-07
(株) アツマネジ	P-B103	国際航業グループ	P-B206	東京工業大学 小長井研究室・山田研究室	PV-03	(株) ホクエイ	P-D444
(株) アド・サイエンス	P-C113	共同 国際航業ホールディングス (株)	P-B206	東京大学先端科学技術研究センター Solar Quest	PV-11	北陸先端科学技術大学院大学 松村研究室	PV-09
(株) アドバンテック	P-D218	共同 KOKUSAI EUROPE GmbH (株)	P-B206	東京農工大学 上迫研究室	PV-06	共同 (株) 堀場アドバンスドテクノ	P-C314
アプライド マテリアルズ ジャパン (株)	P-D407	共同 国際ランド&ディベロップメント (株)	P-B206	東京理科大学工学部荒川研究室	PV-15	共同 (株) 堀場エステック	P-C314
米国アラバマ州経済開発局	P-C208-01	コニカミルタセンシング (株)	P-C101	(株) 東芝	P-B701	(株) 堀場製作所	P-C314
アリゾナ商務省/投資誘致日本事務所	P-C208-02	(株) コベルコ科研	P-B109	共同 東芝ナノアナリシス (株)	P-D216	共同 本田技研工業 (株)	P-D606
(株) アルゴ	P-C513	(財) 材料科学技術振興財団	P-C104	東芝三菱電機産業システム (株)	P-B408	(株) ホンダソルテック	P-D606
(株) アルバック	P-D601	(株) サカタ製作所	P-B104	東北大学 金属材料研究所		共同 マイクロビューコーポレーション	P-D131
(株) イーケックジャパン	P-D540	(株) 三永電機製作所	P-B119	低炭素社会基盤材料融合研究センター	PV-05	(株) マキテック	P-B106
池上通信機 (株)	P-C202	産業技術総合研究所 太陽光発電研究センター	P-D715	(株) 東洋経済新報社	P-D013	マテックス (株)	P-D509
(株) 石井表記	P-D207	(株) 産業タイムズ社	P-D140	共同 東レ・デュボン (株)	P-D414	マルチ計測器 (株)	P-C103
共同 (株) イデアルスター	PV-13	(株) サンツール	P-D421	トッキ (株)	P-D201	丸文 (株)	P-D527
伊藤忠プラスチック (株)	P-B426	サンテックパワージャパン (株)	P-C606	豊田工業大学	PV-01	米国ミズーリ州	P-C208-04
井上商事 (株)	P-B108	山洋電気 (株)	P-B403	長岡技術科学大学 半導体工学研究室	PV-20	共同 ミズーリパートナーシップ	P-C208-04
共同 イノラス システムズ	P-D131	三洋電機 (株)	P-B706	長瀬産業 (株)	P-D436	(株) 三井化学分析センター	P-D419
(株) イブプロス	P-D451	(株) サンワハウス	P-B318	名古屋工業大学 大型設備基盤センター		共同 三井・デュボンフロケミカル (株)	P-D414
米国イリノイ州政府	P-C208-03	CBC (株)	P-D129	先端研究施設共用促進事業	PV-21	共同 三井デュボンポリケミカル (株)	P-D414
岩崎電気 (株)	P-C211	シーメンス (株)	P-D311	ナノメトリクス・ジャパン (株)	P-C312	三菱化機 (株)	P-C206
(株) インコム	P-D438	(株) ジェイ・イー・ティ	P-D405	新潟県企業局	P-C519	三菱電機 (株)	P-D701
共同 インターテックジャパン (株)	P-C303	共同 Jソーラー (株)	P-D534	(株) 日刊工業新聞社	P-D017	宮崎県	P-B521
INDOSOLAR LTD.	P-D707	ジェー・エー・ウーラム・ジャパン (株)	P-B310	日経BP社	P-B522	武蔵エンジニアリング (株)	P-C306
VAT (株)	P-D507	(株) 資源総合システム	P-D629	共同 (株) 日新システムズ	P-B510	(株) ムラカミ	P-D113
ウシオ電機 (株)	P-D329	(株) 島津製作所	P-C204	日新電機 (株)	P-B510	(株) 明電舎	P-B405
(株) エーディンシー	P-B309	清水惣 (株)	P-D315	日清紡メカトロニクス (株)	P-C506	(株) メディア研究所	P-C401
共同 エコーム (株)	P-B426	シャープ (株)	P-C701	日晴金属 (株)	P-B211	モバイルPV合同会社	P-D534
エコシフト技術工事協同組合	P-B201	共同 包頭市山晟新能源有限責任公司	P-D511	日本アールソフトデザイングループ (株)	P-D135	共同 守谷商会	P-C202
共同 (株) エス・アンド・ティ	P-D501	シュマルツ (株)	P-D422	日本エア・リキード (株) ジャパン・エア・ガソクス	P-D216	P-D2301	
共同 SPI LASERS	P-D324	新栄電子計測器 (株)	P-C301	(株) 日本エコシステム	P-B316	山下電装 (株)	P-B220
(株) エヌ・エス・エス	P-C520	神港精機 (株)	P-D101	日本エム・ケー・エス (株)	P-D107	共同 隣真科技股形有限公司	P-B426
(株) NTTファシリティーズ	P-B303	新興マイタ (株)	P-B501	日本スウェーデンロックFST (株)	P-D417	Yole Development	P-D211
エヌビエエ (株)	P-D212	新コスモス電機 (株)	P-C311	日本製紙クレシア (株)	P-D231	YOCASOL (株)	P-B609
(株) エヌ・ビー・シー	P-D503	新東工業 (株)	P-D221	日本セミラボ (株)	P-C114	(株) ヨシザワ建築構造設計	P-B209
(株) エネルギーフォーラム	P-D514	新日本石油 (株)	P-B517	日本ビーコ (株)	P-D325	(株) ライジングコーポレーション	P-B311
(株) 荏原製作所	P-D204	共同 ストローブリ (株)	P-D333	(株) 日本ビジネス出版	P-D004	(株) リード	P-D121
共同 (株) 荏原電産	P-D204	共同 スピードテックエナジー (株)	P-D213	共同 日本避雷針工業 (株)	P-B301	(株) リガク	P-C422
共同 (株) 荏原フィロドテック	P-D204	(株) 住友電気工業 (株)	P-C201	日本ヒルティ (株)	P-B114	理研計器 (株)	P-D305
共同 エムアイエンジ	P-D131	住友電気工業 (株)	P-D130	日本ファインテック (株)	P-C119	リッカーマン (日本) (株)	P-D131
(社) 応用物理学会	PV-08	SEMIジャパン	P-D010	(株) 日本マイクロニクス	P-C214	立命館大学	PV-07
共同 オーケイラボ (有)	P-C419	(株) セルシステム	P-B210	(株) 日本レーザー	P-D324	龍谷大学 理工学部 和田研究室	PV-02
(株) 大阪真空機器製作所	P-D307	セントラル硝子 (株)	P-D138	共同 NEWPORT	P-D324	(株) リンクスインターナショナル	P-D520
大阪大学 安武研究室	PV-10	(株) 創建コーポレーション	P-B113	共同 NEXPOWER TECHNOLOGY	P-D527	(株) リンテック	P-D331
大阪府立大学 大学院工学研究科 中澄研究室	PV-18	(株) 相馬光学	P-C111	ネグロス電工 (株)	P-B116	レーザーテック (株)	P-C403
(株) オーム社	P-D003	Solarbuzz	P-D109	ネプラスカ州政府駐日代表事務所	P-C208-05	レーザーフォーカス ワールド ジャパン	P-D007
(株) 岡崎製作所	P-D104	ソーラーフロンティア (株)	P-B715	ネミーエネルギーソリューションズ (株)	P-B401	レニション (株)	P-C514
音羽電機工業 (株)	P-B301	特定非営利活動法人 ソフトエネルギープロジェクト	P-D423	ノースカロライナ州政府日本事務所	P-D513	ワイエイシイ (株)	P-D321
米国オハイオ州政府経済開発局	P-C118	ソブレインソーラー (株)	P-D613	(株) パーカーコーポレーション	P-D133	和光純薬工業 (株)	P-D449
(株) オプトリサーチ	P-C419	(株) ソルトン	P-D333	(株) パーキンエルマー ジャパン	P-C413	(株) ワコム電創	P-C304
(株) オプトロニクス社	P-D008	(株) 大京	P-B213	ハイウィン (株)	P-C309		

会場図

ホールD

ホールC

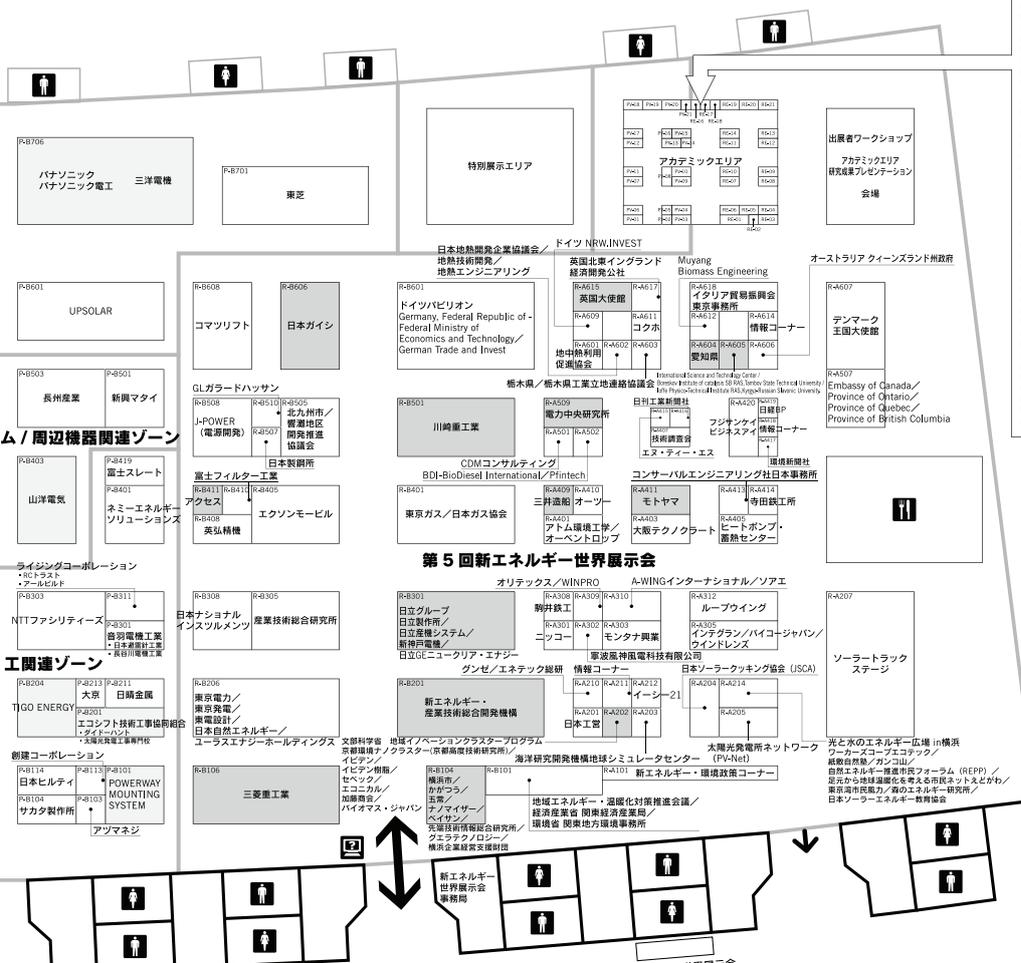


- | | | | |
|---------------------------|-------------|--|--------|
| 事前
登録所 (登録済みの方) | 出版社によるセミナー | 検査コーナー | 女子用トイレ |
| 当日
登録所 (未登録の方) | VIPラウンジ | コインロッカー | 男子用トイレ |
| PRESS
報道受付 | ラウンジ (飲食なし) | PVJapanデモ実証ブース | |
| 特別
特別招待受付 | ラウンジ (飲食あり) | Renewable Energy 2010
電池・電力貯蔵・
輸送システム関連ブース | |

- P-C208-01 米国アラバマ州経済開発局
- P-C208-02 アリゾナ州商務局 投資誘致日本事務所
- P-C208-03 米国イリノイ州政府
- P-C208-04 米国ミズーリ州
ミズーリ州観光局
- P-C208-05 ネブラスカ州商務局 代表事務所
- P-C208-06 米南卡罗来纳州政府駐日代表事務所
- P-C208-07 ベンシールベニア州 地域振興・経済開発 日本投資事務所
- P-C208-08 米国デラウェア州政府日本事務所

ホールB

ホールA



- アカデミックエリア 出展大学・研究機関**
- PVJapan 2010
- PA-01 豊田工業大学
 - PA-02 慶応大学 理工学部 和田研究室
 - PA-03 東京工業大学 小井井研究室・山田研究室
 - PA-04 経緯大学 東京豊大電光システム研究センター
 - PA-05 東北大学 金属材料研究所 炭素系社会基盤材料総合研究センター
 - PA-06 東京農工大学 上沼研究室
 - PA-07 立命館大学
 - PA-08 応用物理学部
 - PA-09 北陸先端科学技術大学院大学 松村研究室
 - PA-10 大阪大学 安成研究室
 - PA-11 東京大学 先端科学技術研究センター Solar Quest
 - PA-12 京都大学 エネルギー-理工学研究所・生体工学研究所
 - PA-13 名古屋大学 理工学研究所 化学系
 - PA-14 中部大学・工学部・内田研究室
 - PA-15 東京理科大学 工学部 荒川研究室
 - PA-16 福岡県立大学 宮坂研究室
 - PA-17 九州工業大学 卒業研究室
 - PA-18 大阪府立大学 大学院工学研究科 中道研究室
 - PA-19 九州工業大学 和富研究室
 - PA-20 長岡技術科学大学 半導体工学研究室
 - PA-21 名古屋工業大学 大型設備センター 先端研究施設共同促進事業
- 第5回新エネルギー世界展示会**
- RE-01 国際エネルギー学会 (日本新エネルギー協会/日本新エネルギー協会)
 - RE-02 愛知工業大学 エネルギー研究センター
 - RE-03 (財) 電力中央研究所
 - RE-04 (財) 群馬県産業技術機構
 - RE-05 (財) 群馬県産業技術機構
 - RE-06 北九州市立大学
 - RE-07 東京理科大学 工学部 工業化学科 島野研究室
 - RE-08 慶應義塾大学 理工学部 エネルギー環境システム研究室
 - RE-09 宮城大学 食産学部 食品化学研究室
 - RE-10 千葉大学工学部 工学研究科 建築・都市科学専攻 小倉研究室
 - RE-11 日本経済大学
 - RE-12 独立行政法人 国立環境研究所
 - RE-13 弘前大学 北日本新エネルギー研究センター
 - RE-14 九州大学大学院 工学研究科 地球システム学研究室
 - RE-15 環境創造大学
 - RE-16 岡山工業高等専門学校 機械電気工学科
 - RE-17 三重大学 エネルギー環境工学研究室
 - RE-18 三重大学 エネルギー環境工学研究室
 - RE-19 東京理科大学 工学部 電気電子工学科 トライプシステム研究室
 - RE-20 千葉科学大学 情報工学部 安藤研究室
 - RE-21 大阪府立大学 エネルギーシステム工学研究室

周辺機器関連ゾーン

工関連ゾーン

第5回新エネルギー世界展示会

会議センター
「再生可能エネルギー2010 国際会議」

基調講演

日時：6月30日(水) 10:40～12:30

会場：パシフィコ横浜 会議センター1F メインホール

今回、147カ国の参加を得て正式な発足を間近に控えるIRENA(国際再生可能エネルギー機関)からヒューゴ・ルーカス氏が代表として参加いただいたので基調講演に先立ち約20分間記念講演を依頼した。

基調講演はわが国から代表1名、海外代表から代表1名の2名の方により、それぞれ40分間行われた。

①基調講演1

東京大学大学院理学系研究科長・理学部長 理学博士 山形俊男氏

(壇上での紹介者：独立行政法人海洋研究開発機構 執行役海洋工学センター長 堀田 平氏)

②基調講演2

米国エネルギー省国立再生可能エネルギー研究所(NREL) プリンシパル、Ph博士 デービッド・レネ氏

(壇上での紹介者：SEMIプレジデント兼CEO) スタンリー・マイヤーズ氏)



●組織委員長 開会挨拶 (東京工業大学教授 柏木 孝夫氏)



おはようございます。組織委員長として一言開会のご挨拶を申し上げます。皆様ご存知のように再生可能エネルギー技術発展の重要性は21世紀に入り、益々大きくなり、その重要性は年々重みを増していきます。太陽電池コストの低減により住宅への導入が促進しつつありますが、これを1つの例にとっても再生可能エネルギーの技術開発は、今世紀最大課題の1つである環境とエネルギー問題の解決策として世界的にその期待は高まっております。

世界のエネルギー需給に関するある長期計画では、2050年までに一次エネルギーの凡そ50%が再生可能エネルギーになる可能性があり、2100年ではその比率は2/3以上になるであろうというシナリオがあります。私たちはこの積極的な目標に向かってできるだけ素早く行動を起こす必要があります。その行動こそが、エネルギー選択の道を拓き、どのような生活がQuality of Lifeかを明確にするものと思います。再生可能エネルギーはすべての人類に与えられるゆえ、非常に平和的なエネルギー源でもあります。

私たち組織委員会240名以上のメンバーが2年以上の歳月をかけ、当国際会議の成功に向け不断の努力をしてきました。そして、会議スローガンとして“Advanced Technology Paths to Global Sustainability”(先進技術を通じて地球の持続性を築こう)を掲げています。私は組織委員長としてすべての関係者に謝意を表すとともに、特に国際諮問委員の方々の強力なご支援に謝意を表します。

ここ横浜に招いていただいた横浜市にも謝意を表します。横浜市はわが国の環境モデル都市として選定されており、最も積極的に環境問題に取り組んでいる都市でもあります。会議だけではなく素晴らしいWater front Cityでもあります。

組織委員会は、この会議が、グリーンでクリーンな理想的なエネルギーシステムを21世紀に向けて確立するため様々な提案を出し合い、かけがえのない地球に参加者全員が貢献する、そのような会議になるよう企画しました。再生可能エネルギーは強力な世界経済の成長を促がす筈です。どうもご清聴ありがとうございました。

●基調講演1 講演要旨(東京大学教授、理学部長 山形 俊男氏)

演題 気候変化、変動と持続的なグリーンエネルギー



温暖化効果ガスが地球を覆うにつれ、大気上層からの長波長輻射の通過量が減り、地球上での温度上昇が発生する。非常に単純な現象が現在起こっている。産業革命以降の人間活動にもとづくCO₂増加が原因で発生している気候変化(Climate Change)である。異常気象に代表される気候変動(Climate Variation)も同時に発生し、我々の生活を脅かしている。

人為的原因にもとづく気候変化のない世界を実現するためには、飲料水と食料の持続的な確保とともに、再生可能エネルギーを利用するなど従来型でないエネルギー源の技術革新を迫る必要がある。大気、バイオ、海洋などに再生可能エネルギー源が存在する。それゆえ、太陽光、風力、潮力、波力、水力、バイオマスなど再生可能エネルギーの利用を持続的に可能にすることが、気候変化と変動を考える上で重要である。

気候“変動”(Variation)は、季節の変わり目から10年間くらいの平均的状态からの気候変動を言い、自然現象が原因で惹き起こされる。他方、気候“変化”(Change)は、その状態が長期間にわたって変化する状況を言い、大気や海洋の自然システムに、外から大きな力がかかって発生する現象である。典型的な例が現在の地球温暖化であり、人為的原因で温室効果ガスが増加した。人間活動に起因するのが気候“変化”である。気候変化と言う場合、もうひとつの概念がある。即ち、地球の回転軌道と地球軸の傾きの変化に起因し何万年、何十万年の周期で起こる気候変化である。太陽光の輻射熱の変化で発生する氷河期が典型例である。気候に対する対策を考える時、気候変化と気候変動を混乱してはならない。異常気象や異常な自然現象は気候変動であり、気候変化ではない。

気候変動を研究する私たちが明言できることは、気候科学を専門的学究的に研究するコミュニティができ、そこでは気候変動の予測技術が急速に進展していると言うことである。1,2年先までのエルニーニョ現象の発生を予測できる。グリーンエネルギーシステムの構築を21世紀に向け持続的に展開していくためには、気候変動の予測技術の確立は不可欠であり、今や人間社会にとって欠くべからざるものになっている。

●基調講演2 講演要旨(NRELプリンシパル Ph博士 デービッド・レネ氏)

演題 世界中の太陽光発電の現状と今後に向けた動向



太陽光発電技術は過去30年間を振り返ると、効率、コスト、応用面で大きな進歩をとげた。発表では太陽電池技術と市場の現在を総括し、今後どのような市場になるかその期待を述べたい。世界全体を見渡した時、住宅用や、農村部のコミュニティ、また開発途上国では系統に連系しない独立電源として、現在普及している。一方、既存配電システムの一環として、場合によっては大容量集中管理方式のソーラーステーションを設置して、給配電盤に接続、もしくは地域の系統線に直接連結しシステムとして普及してきている。系統連系技術は近年先進諸国で研究開発が進められ急速に発展してきた。米国、ヨーロッパ、日本でこの傾向は顕著である。しかしながら、前者の独立電源としての領域も需要の伸びが将来とも予測され、一定の市場を形成していくと思われる。

太陽エネルギー源は世界中どこでもエネルギー価値として取り出すことができる。太陽エネルギーの豊富なサハラ砂漠、ゴビ砂漠、もしくは米国南西部の砂漠地帯に太陽電池を95,000km²敷き詰めれば今日現在の世界電力需要のすべてを賄えるだけの力がある。太陽光発電の市場展開を成功させるためには相互に作用し合う多くの要素技術が必要である。民間による投資、製造スケールの大規模化、新技術製品の研究開発、素材と製造の両面のコスト削減、新発想でのビジネスモデル、そして政府の政策である。これらの要素が相乗効果を上げてこそ市場における真の発展があり、更なる技術的発展につながっていく。

しかしながら、現状は多くの問題を抱えている。初期投資コストが高いこと、エネルギー源が不連続であること、設置業者も電力会社も住宅に対し施工技術が十分あるとは言えないこと、エネルギー強度が低いこと(ある要求量を満たそうとする場合、コストに見合ったエネルギー量を得るには大量の土地や面積が必要になる)、地域や電力インフラの整備不足、政策や法制面での不整備などである。それがゆえ、独立電源系に軸足を置いてそこからエネルギー需要の議論を展開していくべきと考える専門家も多いことは事実である。しかし、これらの問題解決に向け多くの取り組みが行われていることも事実である。その中でも、地域や国レベルの配電網に直接連系する技術開発は特に顕著である。その例のいくつかを講演で紹介する。

併催フォーラム

計32セッションで約3,000名が参加しました。

6月27日(日)

区分	タイトル	主催	場所
RE【1】	IEA-Task8/NEDO ワークショップ	IEA, (独)新エネルギー・産業技術総合開発機構	会議センター5階
RE【2】	第20回日本機械学会環境工学シンポジウム	日本機械学会	会議センター5階

6月28日(月)

区分	タイトル	主催	場所
RE【2】	第20回日本機械学会環境工学シンポジウム	日本機械学会	会議センター5階
RE【3】	横浜市 市民フォーラム	横浜市 地球温暖化対策本部	会議センター5階

6月29日(火)

区分	タイトル	主催	場所
RE【4】	METI/NEDO セッション － 再生可能エネルギーが開くアジアの未来 －	経済産業省、 (独)新エネルギー・産業技術総合開発機構	会議センター5階

6月30日(水)

区分	タイトル	主催	場所
共同行事	再生可能エネルギー世界フェア2010 開会式・基調講演	再生可能エネルギー2010国際会議組織委員会、 再生可能エネルギー協議会、太陽光発電協会、 SEMI	会議センター メインホール
RE【5】	NEDO セッション	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構	会議センター5階
RE【6】	J-BILAT 第2回セミナー 「エネルギー・物質科学における日欧協力」	日欧産業協力センター	アネックスホール
RE【7】	EUの再生エネルギー政策とEU加盟国の取り組み の紹介～英国とフランスの事例～	日欧産業協力センター、英国大使館	アネックスホール
PVJ【1】	専門セミナー1 材料・部材	太陽光発電協会、SEMI	アネックスホール
PVJ【2】	SEMI Tutorial「太陽光発電技術」 結晶シリコン系太陽電池コース	SEMI	アネックスホール
PVJ【3】	PV 関連環境法規制と環境インパクト	SEMI	会議センター5階
PVJ【4】	専門セミナー2 マーケットトレンド	太陽光発電協会、SEMI	アネックスホール
PVJ【5】	専門セミナー3 次世代太陽電池	太陽光発電協会、SEMI	アネックスホール
PVJ【6】	公共産業(非住宅)分野の太陽光発電システムの 設計と施工セミナー	太陽光発電協会 公共産業部会	アネックスホール

7月1日(木)

区分	タイトル	主催	場所
RE【8】	NEFセッション	(財)新エネルギー財団	会議センター5階
RE【9】	AISTセッション	(独)産業技術総合研究所 エネルギー技術研究部門	会議センター5階
RE【10】	再生可能エネルギー政策シンポジウム	自然エネルギー政策プラットフォーム (JREPP)	アネックスホール
PVJ【7】	専門セミナー4 結晶シリコン系太陽電池	太陽光発電協会、SEMI	アネックスホール
PVJ【8】	SEMI Tutorial「太陽光発電技術」薄膜シリコン系太陽電池コース	SEMI	アネックスホール
PVJ【9】	住宅用太陽光発電の最近の状況	太陽光発電協会 住宅部会	アネックスホール
PVJ【10】	あなたの製品戦略は世界の標準化の流れに乗っているか?	SEMI	会議センター5階
PVJ【11】	Executive Forum	太陽光発電協会、SEMI	アネックスホール
PVJ【12】	SEMI Tutorial「太陽光発電技術」化合物(CIGS)太陽電池コース	SEMI	アネックスホール

7月2日(金)

区分	タイトル	主催	場所
RE【11】	第4回海洋エネルギー資源フォーラム	海洋エネルギー資源普及推進機構	会議センター4階
RE【12】	第4回APP日中新再生可能エネルギーセミナー 中国カントリーレポート - 公開講演	(財)日本エネルギー経済研究所	アネックスホール
RE【13】	第4回APP日中新再生可能エネルギーセミナー - 産業対話	(財)日本エネルギー経済研究所	アネックスホール
PVJ【13】	専門セミナー5 認証・規格・標準化	太陽光発電協会、SEMI	アネックスホール
PVJ【14】	専門セミナー6 製造装置	太陽光発電協会、SEMI	アネックスホール
PVJ【15】	専門セミナー7 薄膜系太陽電池	太陽光発電協会、SEMI	アネックスホール
PVJ【16】	専門セミナー8 電力システム・アプリケーション	太陽光発電協会、SEMI	アネックスホール
PVJ【17】	将来のアジアにおけるPV普及と日本の役割	太陽光発電協会 国際部会	アネックスホール
PVJ【18】	SEMIスタンダード日本地区 PV (Photovoltaic)技術委員会	SEMI	会議センター5階

併催イベント

<1>アカデミックエリア 研究成果プレゼンテーション

国内外の大学・研究機関による最新研究の成果発表・展示を行い、未来の実用技術を広く公開し、産学連携を推進します。

協力：日本太陽エネルギー学会

7月1日(木)

10:20～10:40	大阪府立大学 エネルギーシステム工学研究室 「コージェネレーション/ヒートポンプによる給湯システムの動特性シミュレーション」 発表者：今泉 直樹(代表)、河野 泰大
10:50～11:10	宮城大学 「熱電変換素子による太陽熱発電と今後の展開」 発表者：矢野 歳和
11:20～11:40	慶應義塾大学 理工学部 エネルギー環境システム研究室 「木の葉に学び森と生きるシステムデザイン」 発表者：佐藤 春樹
11:50～12:10	日本地熱学会 「日本の地熱エネルギーとその利用」 発表者：土屋 範芳
12:20～12:40	千葉大学大学院 工学研究科 建築・都市科学専攻 小倉研究室 「無機系ケミカルヒートポンプシステムの実用化開発事例」 発表者：小倉 裕直

7月2日(金)

10:50～11:10	九州大学大学院 工学研究院 地球熱システム学研究室 「多様な地熱エネルギーの利用を目指して」 発表者：分山 達也
11:20～11:40	電力中央研究所 「アオコから緑の原油の抽出に成功、Extraction of Green Crude from Blue - Green Algae」 発表者：神田 英輝・李鵬
11:50～12:10	(財)群馬県産業支援機構 「家畜排せつ物の低温ガス化技術」 発表者：XIAO XIANBIN
12:20～12:40	独立行政法人 国立環境研究所 「再生可能エネルギーを活用した気候変動緩和・適応型社会構築に向けた国立環境研究所の取り組み」 発表者：芦名 秀一

敬称略

<2>ワークショップ

6月30日(水)

11:00～11:45	自然エネルギー推進市民フォーラム 「市民による熱利用可視化検討会」
12:00～13:45	オーストラリア キーンズランド州政府 「オーストラリア キーンズランド州の再生エネルギー計画とビジネスチャンス」
14:00～14:45	英国北東イングランド経済開発公社 「北東イングランド地域の新・再生可能エネルギープロジェクトを通じた英国におけるビジネス機会」
15:00～15:45	環境省 「環境政策としてのエコアクション21について ～エコアクション21を活用した環境経営～」

7月1日(木)

13:00～13:45	横浜市 「横浜スマートシティプロジェクト」
14:00～15:45	横浜市 「横浜市内企業による技術開発の取組」

7月2日(金)

13:00～13:45	地域エネルギー・温暖化対策推進会議／関東経済産業局／関東地方環境事務所 「エネルギー・温暖化に関する政策及び支援策について」
14:00～14:45	日本工営(株) 「小規模水力発電」
15:00～15:45	日本ナショナルインスツルメンツ(株) 「環境技術が求める新たな計測」



SPECIAL : モービル ウィンドタービン ルブリカンツ セミナー

会 場 : パシフィック横浜アネックスホール 202号室

日 程 : 2010年7月1日(木)

時 間 : 13:00~16:00

会 場 : パシフィック横浜 アネックスホール 202号室

主 催 : エクソンモービル有限会社

参加費 : 無料

概 要 : 環境にやさしいエネルギーとして注目を集める風力発電、そこで使用される潤滑油はさまざまな環境や温度で使用され、かつ高い保護性能と長寿命が求められています。エクソンモービルは合成潤滑油のパイオニアとして、特に風車機器に最適な潤滑油メーカーとしても高い評価を得ております。寿命が長く、耐マイクロピッチング性に優れる合成系ギヤ油「Mobilgear SHC XMP 320」や、合成系グリース「Mobil SHC Grease 460 WT」など風車メーカーに定評のあるモービル合成系潤滑油・グリースをはじめ、あらゆる風車の潤滑ニーズに応えます。本セミナーではこれらエクソンモービルが誇る風力発電用潤滑油の技術的説明、マーケット概要、我々のサポートサービスなどをご紹介します。

プログラム (*通訳つき)

13:00~14:30	テーマ: 「風力発電潤滑における技術的課題」 (*) 発表者: エックハート・ダッシュナー (グローバルインダストリアル & マリン EB/OEM マネージャー)
14:30~14:45	休憩
14:45~15:15	テーマ: 「風力発電市場概要」 (*) 発表者: ラビ・サンダー (アジアパシフィック・ゾーン IL マーケティング アドバイザー)
15:15~15:45	テーマ: 「風力発電における潤滑管理」 発表者: 松井 明 (潤滑油エンジニアリングサポート・シニアルブエンジニア)
15:45~16:00	Q&A

SPECIAL：イタリアの新エネルギー、その最先端技術

会場：パシフィコ横浜アネックスホール 202号室

日程：2010年7月2日(金)

時間：10:15～12:35 ※セミナー後ビュッフェランチ

会場：パシフィコ横浜 アネックスホール 202号室

主催：イタリア貿易振興会

参加費：無料

概要：イタリアは地熱発電発祥の地であるほか、地理的に太陽光資源や風力資源にも恵まれ、再生可能エネルギー分野は近年めざましい成長を遂げています。本セミナーでは、イタリアの新エネルギーの動向をご案内するとともに、イタリア各地の新エネルギー関連のとりくみや最新技術をご案内しました。

プログラム

10:15～10:30	受付
10:30～10:40	◆開会の辞 イタリア貿易振興会東京事務所 所長 フェデリコ・バルマス
	◆議事進行 イタリア大使館 科学技術部 科学アタッシェ アルベルト・メンゴーニ
10:40～11:25	◆イタリアの新エネルギー動向 イタリア投資促進開発機関 アンドレア・タバッラ イタリア電力サービス管理会社 ジェラルド・モンタニーノ イタリア・エネルギー開発機構 エマヌエーレ・スコディッティ
11:25～12:25	◆イタリア各地における新エネルギーの特色と投資機会 ピエモンテ投資・輸出・観光局 イヴァーノ・カンテーリ トレント自治県 ラファエレ・ファレッラ マニファットゥーラ・ドマーニ社 (トレント県) ジャンルーカ・サルヴァトーリ アルキメデ・ソーラーエナジー社 (ウンブリア州) パオロ・マルティーニ
12:25～12:35	質疑応答
12:35～13:55	ビュッフェランチ

SPECIAL：ポータブルエネルギー：イタリア北西部ピエモンテ州トリノの魅力

会場：パシフィコ横浜アネックスホール 202号室

日程：2010年7月2日(金)

時間：14:00～16:30

会場：パシフィコ横浜 アネックスホール 202号室

主催：トリノ商工会議所、ピエモンテ投資・輸出・観光局

協力：トリノ工科大学、イタリア大使館、イタリア貿易振興会

参加費：無料

概要：A meeting dedicated to review and discuss some of the most promising technology developments in the Portable Energy sector and their connection to the growth of intense cooperation between research institutions and private companies of Japan and Piemonte region, North-West Italy. The seminar moves its paces from the most recent achievements of Tohoku University and Politecnico di Torino and the Italian Institute of Technology in the field. In addition, private companies specialists from Nippon Steel Corp, Vishay Semiconductor Italiana, Takion Ltd. and CRF Fiat Research Centre will investigate common ground for cooperation and development with an eye to the individual company's contribution to top-end innovation in the industry worldwide.

プログラム

14:00～14:15	受付 議長：東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授 江刺 正喜
14:15～14:30	ご挨拶：イタリア貿易振興会東京事務所所長 フェデリコ・バルマス 開会の辞：ピエモンテ投資・輸出・観光局 イヴァーノ・カンテーリ
14:30～14:45	「マイクロ技術に基づく携帯パワー源」 東北大学工学研究科 准教授 田中 秀治
14:45～15:00	「Portable energy: Micro and nanotechnologies, collaborative projects in Torino Piemonte」 トリノ工科大学、イタリア技術研究所 ファブリッツィオ・ピッツリ
15:00～15:15	「SiCエレクトロニクスによる高効率エネルギー技術実現への期待」 新日本製鉄株式会社先端技術研究所 藤本 辰雄
15:15～15:30	「Electronic systems for energy management and saving」 Vishay Semiconductor Italiana社 研究開発／製品エンジニアリング・シニアディレクター ルイーダ・メルリン
15:30～15:45	コーヒーブレイク
15:45～16:00	「腕時計にみる再生可能エネルギーの活用例」 株式会社タキオン 斉藤豊
16:00～16:15	「Portable Energy for Sustainable Mobility」 FIAT 研究センター(CRF) ミクロ／ナノ・プロセスリサーチ部門責任者 ジャンフランコ・インノチェンティ
16:15～16:25	質疑応答
16:25～16:30	まとめ：イタリア大使館 科学アタッシェ アルベルト・メンゴニー
16:30	閉会

<3>新エネルギー・環境政策コーナー

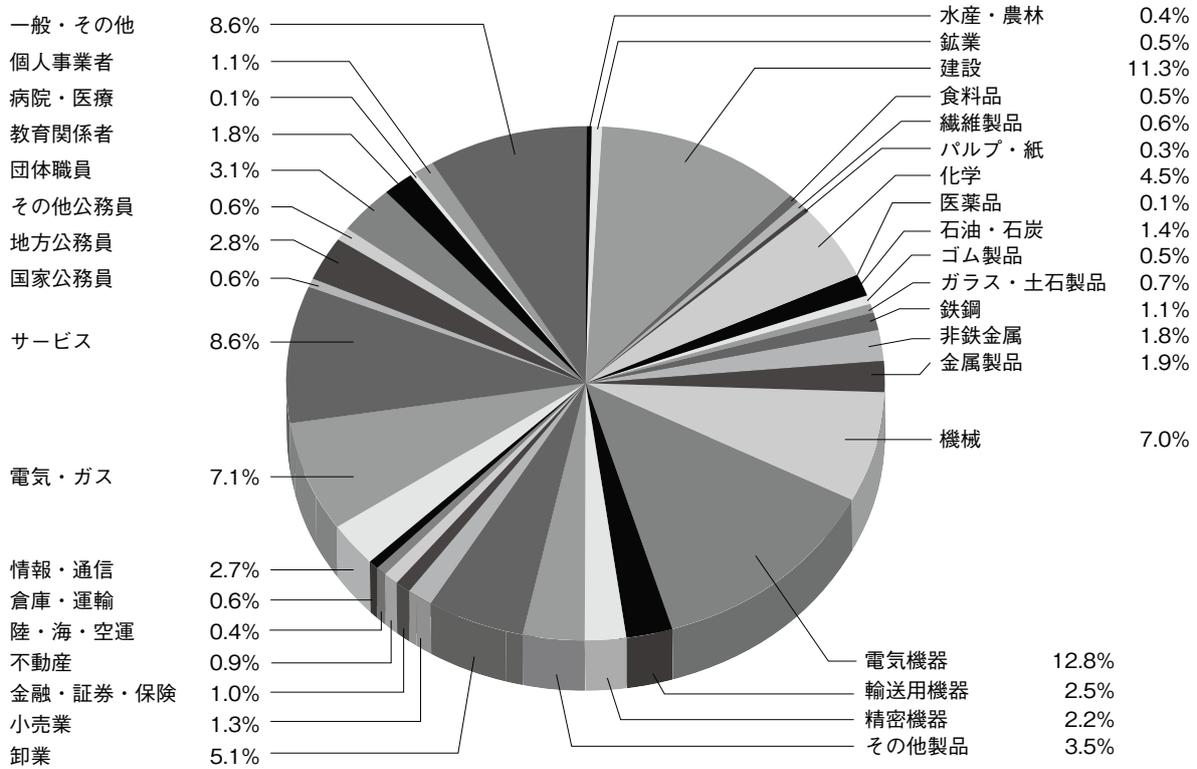
日本の新エネルギー産業の普及拡大のため、日本政府がどのような戦略・構想を掲げているのかをご紹介しました。また、地域の取り組み紹介や情報提供、新エネルギーに関するプロジェクト実現のための相談も承りました。

特別協力：地域エネルギー・温暖化対策推進会議、経済産業省 関東経済産業局、環境省 関東地方環境事務所

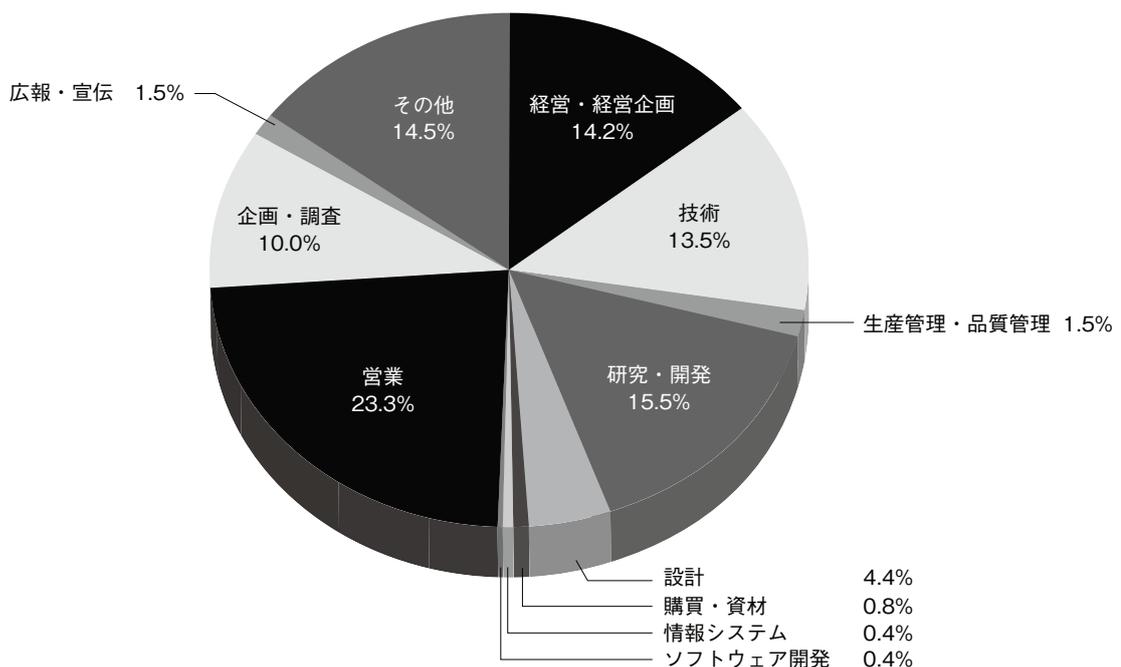


来場者分析

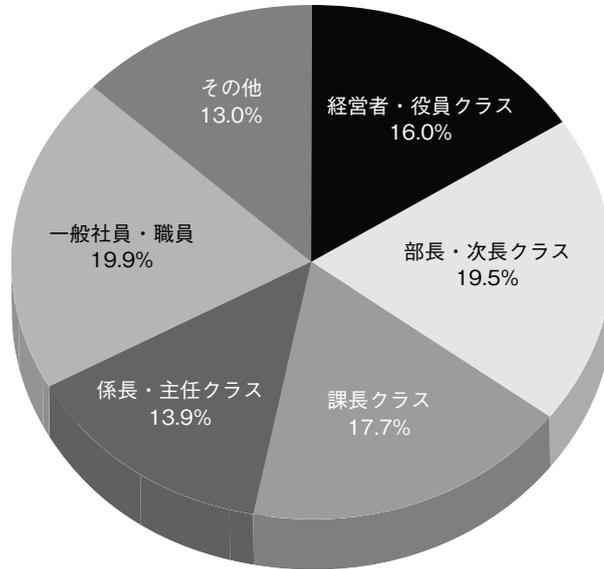
業種



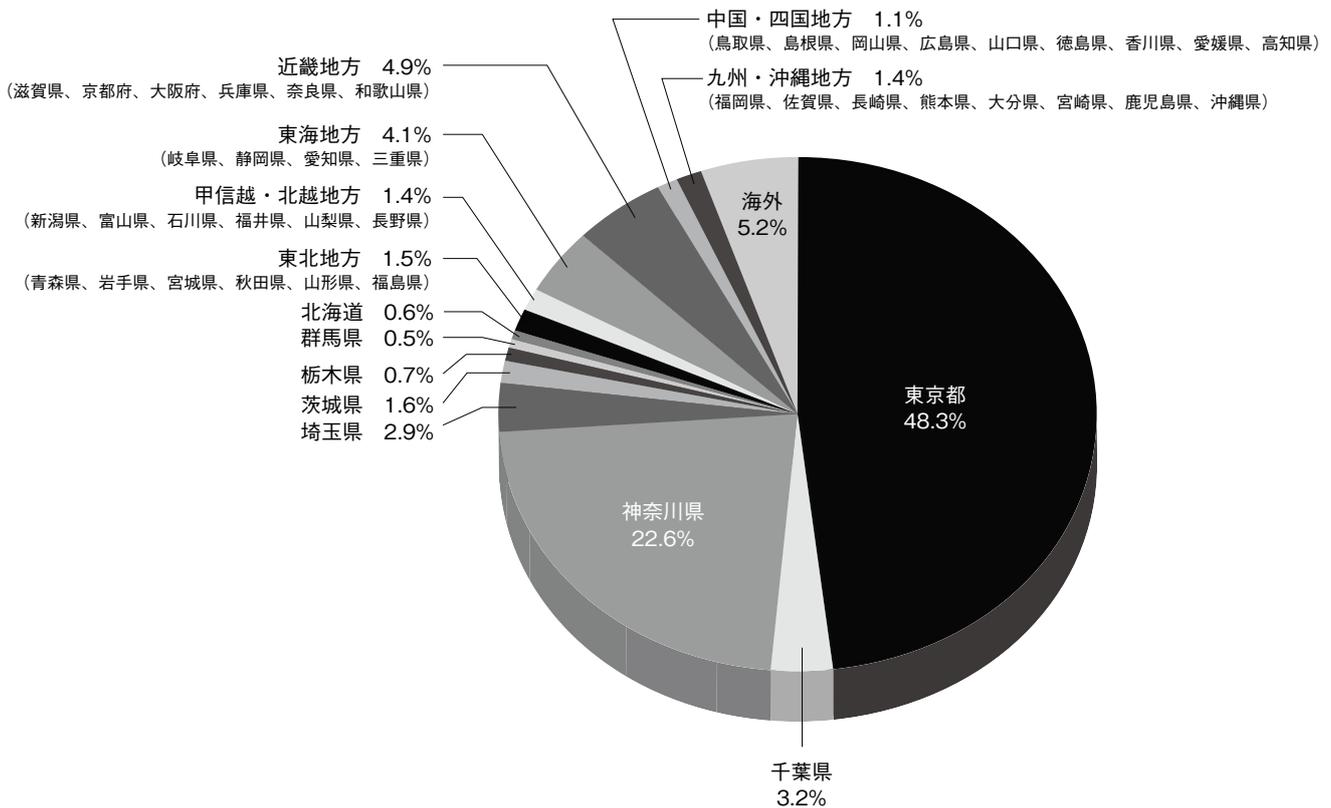
職種



役職



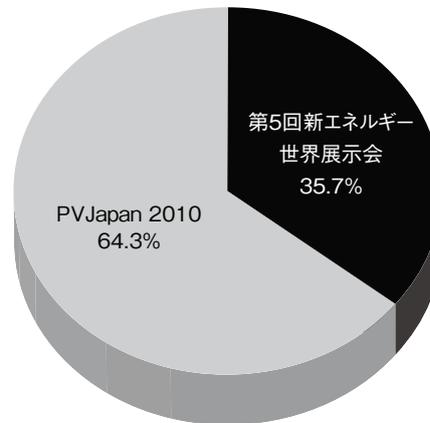
都道府県



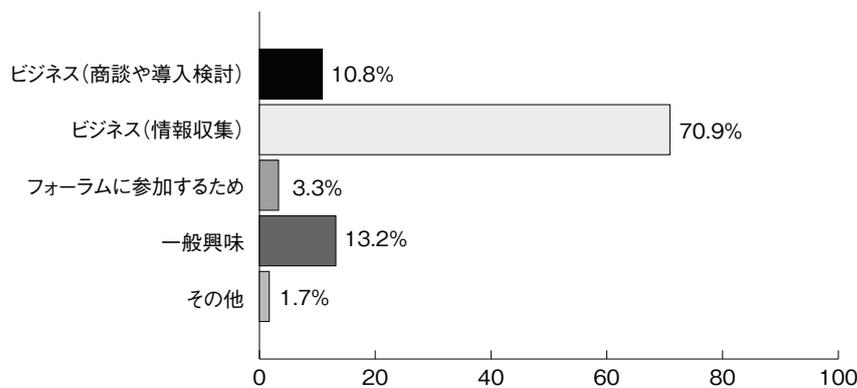
来場者アンケート

(会場出口にアトラダム調査 回答数 1,095 件) ※記述回答例は原文まま

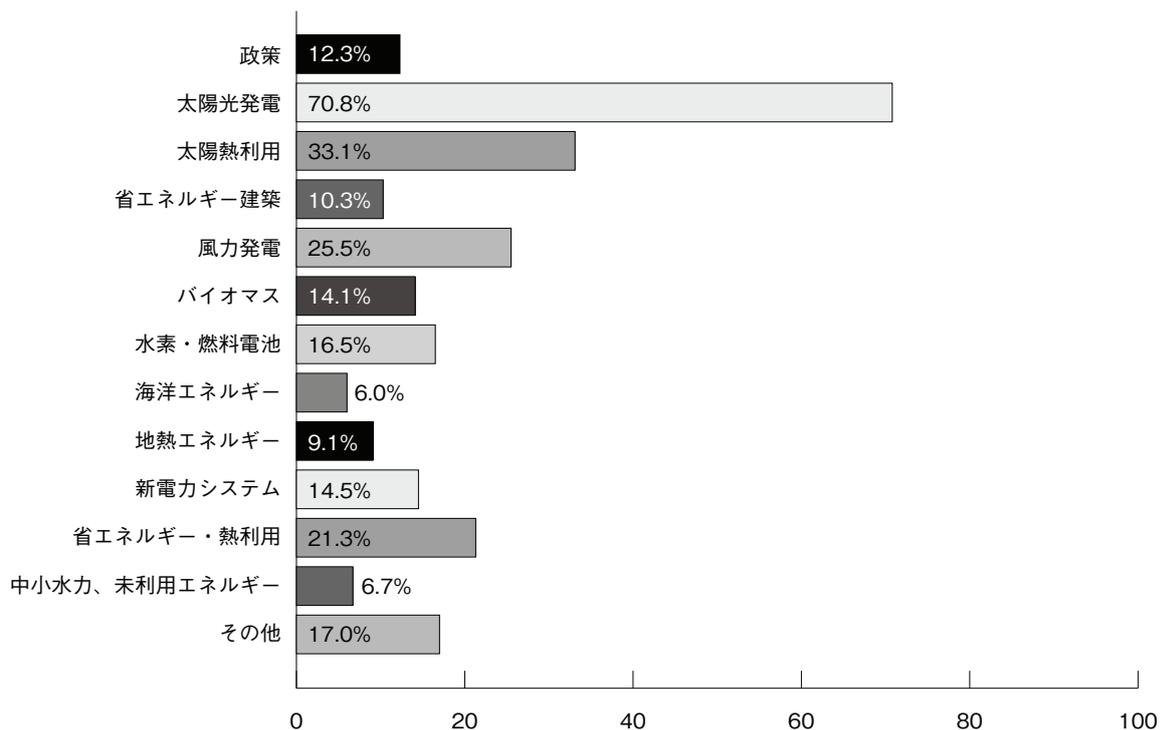
1 どちらで入場しましたか？



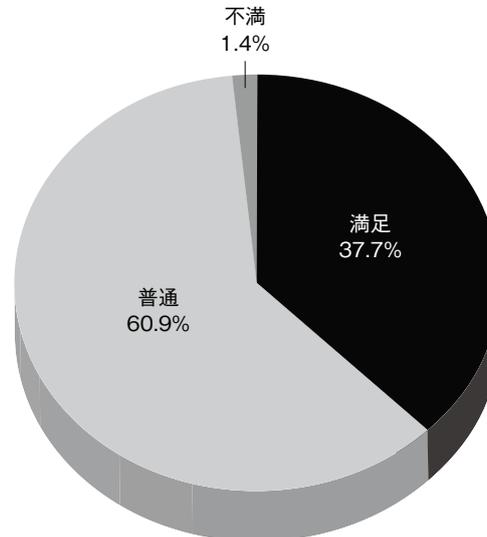
2 来場目的は？



3 あなたが興味ある分野は？ (複数回答)



4 本目的の達成度は？



回答の理由（一部抜粋）

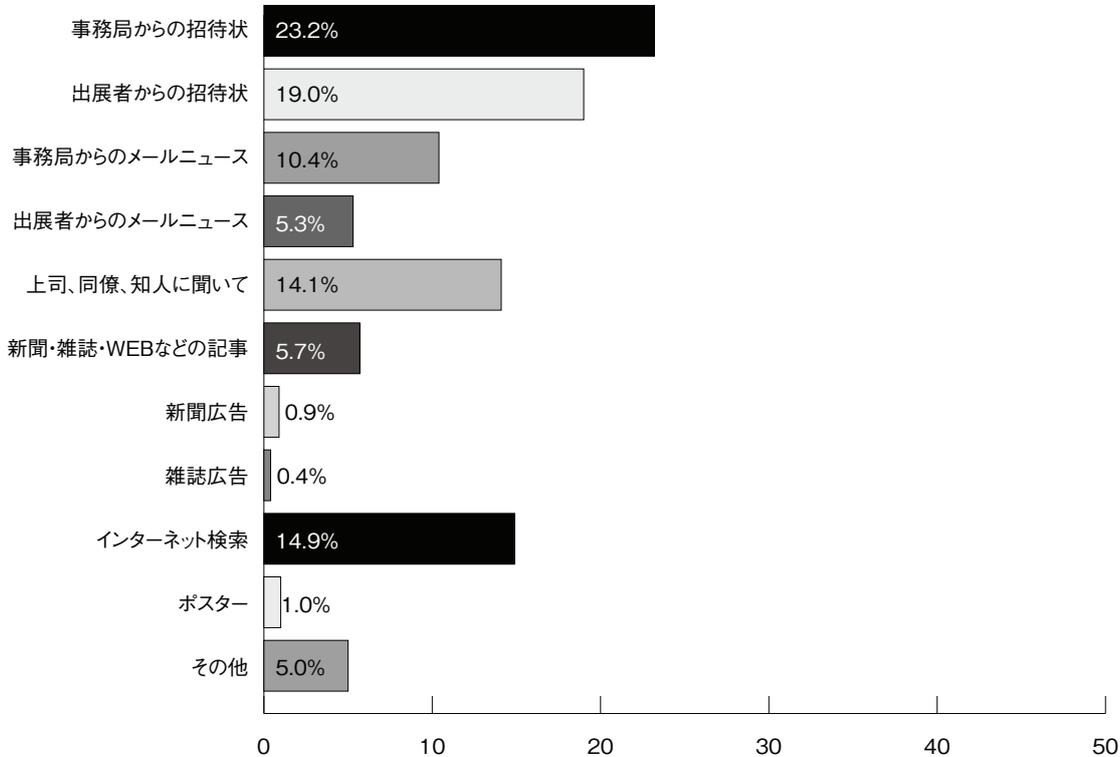
<満足>

- ▶ 有用な情報を入手できた
- ▶ 期待している情報が入手できた
- ▶ 今回はブース数が多かった
- ▶ 最新の取組を把握することが出来、パンフレット類も充実
- ▶ 比較対象が豊富
- ▶ 具体的展示物が多く、わかり易かった
- ▶ 最新技術情報が収集できました
- ▶ 出展社多く情報が多い
- ▶ 業界のトレンドを知ることが出来た
- ▶ 市場の動向がつかめた
- ▶ 再生可能エネルギーの最新動向が知れた
- ▶ 世界の新エネの動向を、様々な国出身の方に聞くことができた
- ▶ 横浜市の取り組みが聞けた
- ▶ 大変面白かった、外国が多いのも良い
- ▶ 自治体関係、外国での取組を理解できた
- ▶ 多方面からのエネルギー利用に対する、各社の取り組みを知ることができた

<普通・不満>

- ▶ 周辺機器の展示出展少ない
- ▶ 情報が多くて整理できない
- ▶ 特に目を見張るような展示物は見当たらなかったが、内容的には充実している
- ▶ 住宅メーカーにも参加して欲しい
- ▶ 若干、会場が狭かった
- ▶ ハウスメーカー、建材メーカーの出展、情報提供が不足している
- ▶ 驚くほどの発見は特に見当たらなかった
- ▶ 少し混雑していた
- ▶ もう少し出展社が多いと良い
- ▶ 熟成されたものが多くなり新規のものが少ない
- ▶ 太陽熱利用の出展が多く、他の自然エネルギー活用事例が少なかった

5 本イベントを知ったきっかけは？

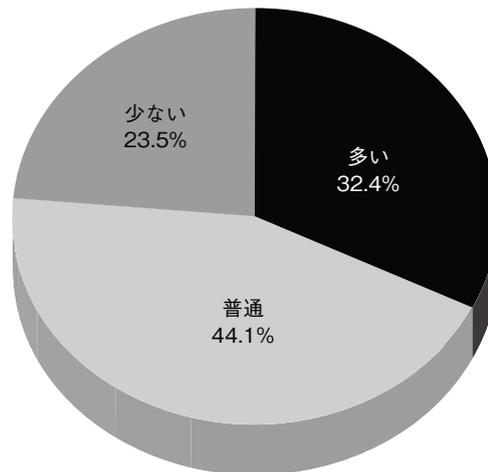


6 次回開催への希望・要望がありましたらお書き下さい

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ▶もう少し規模を大きくしてほしい ▶幅広く再生可能エネルギーを取り扱ってほしい ▶外国からの参加社を多くしてほしい ▶さらに充実した最新情報を期待します ▶材料メーカーの参加をもっと期待したい ▶楽しみにしています ▶世界中のメーカーを集めてください ▶燃料電池に関するブースを増やして頂ければ幸いです ▶政府の取り組み、海外の動向について専門家の意見を聞きたい | <ul style="list-style-type: none"> ▶三日では短い、もっと大勢の人にみせてあげたい ▶出展企業をもっと増やして欲しい ▶主要メーカーのブースを大きく展示して欲しい ▶省エネ事例の出展 ▶水力関係に力を入れて欲しい ▶体験型のものが多いと楽しく知ることができると思っています ▶電力貯蔵関係や廃熱利用関係の充実 |
|---|--|

出展者アンケート

1 来場数はいかがでしたか？



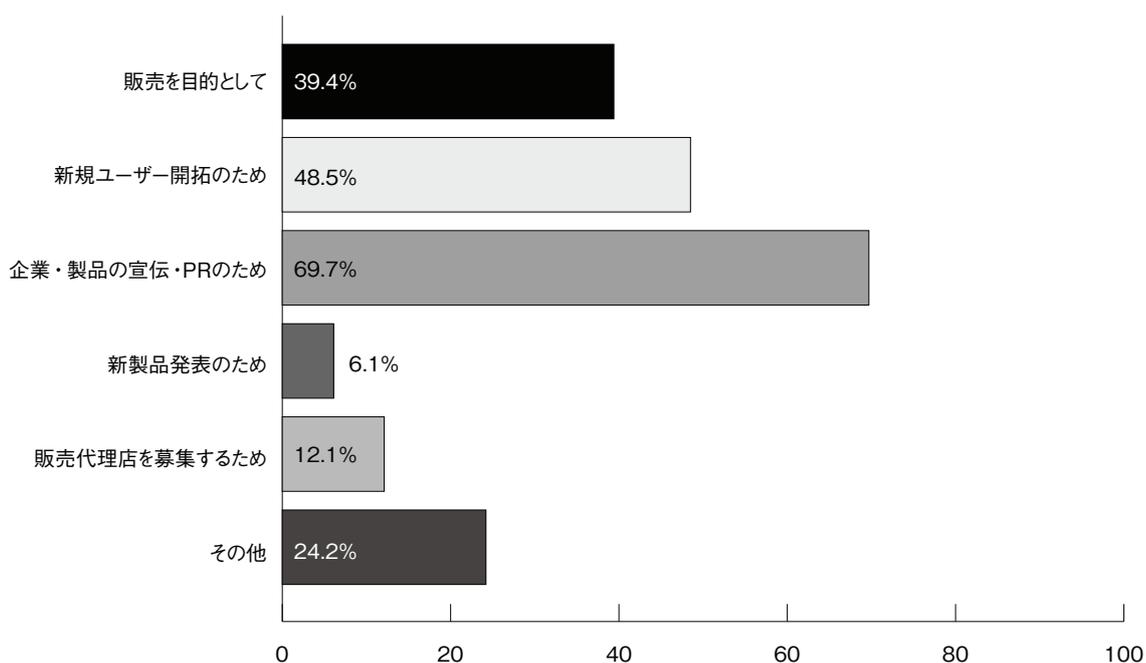
2 どんな来場者層を期待していましたか、また実際はいかがでしたか？（一部抜粋）

- ▶ エネルギー削減機器導入検討客及び販売施工検討企業。おおよそは上記内容に属する客層でした。
- ▶ 風力発電システムやパワーコンディショナの購入検討者。購入検討者もいたが、情報収集が多かった。
- ▶ 環境・エネルギー産業関連の開発従事者。研究者は多数いらっしゃったかとは思いますが、実際把握は難しかった
- ▶ デベロッパー・オーナー・設計事務所。機器メーカー・一般客
- ▶ 製品開発に携わっている方。コーディネータが中心であった
- ▶ エネルギー産業用途装置、プラント、治具の出口メーカー。ほぼ想定した通り
- ▶ 連携・共同研究等を希望する層（管理職・決定権のある方）を期待。情報収集での来場者が大半
- ▶ 太陽光発電だけでなく、新エネルギー全般。多種多様だったが、やはり太陽光関連が多かった
- ▶ 市民、市内企業との商談を望む企業。期待どおり

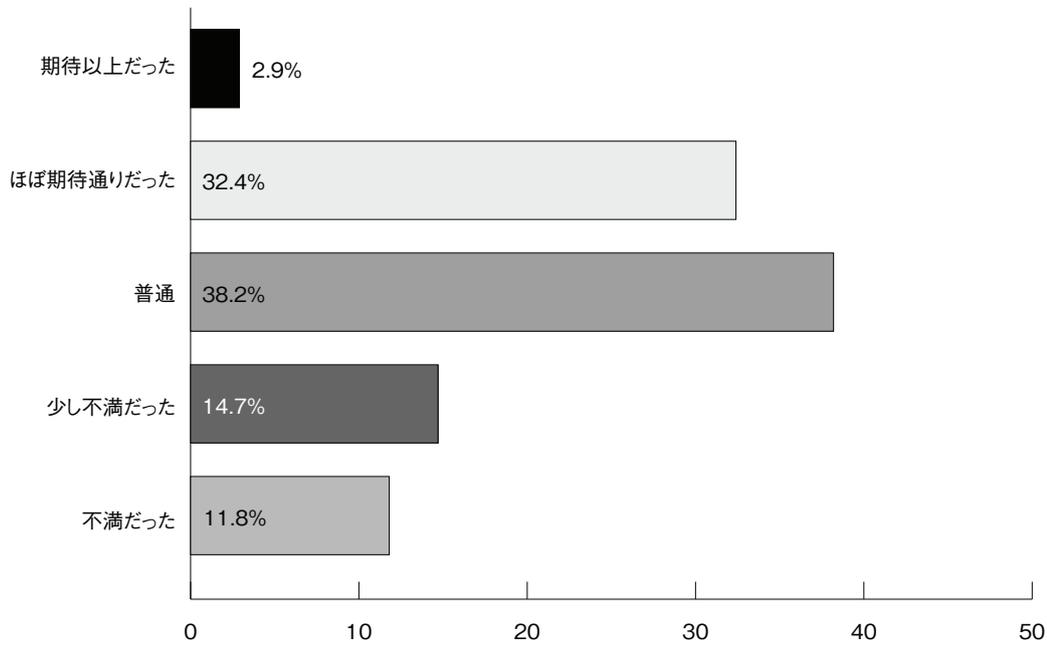
3 どのようなお客様に来ていただきたいですか？（一部抜粋）

- ▶若手研究者、企業内研究者、大学在籍の研究者、新商品開発担当者など（海外も含めて）
- ▶風車導入を計画中またはご検討中の企業様のご担当者様あるいは役員様
- ▶製品開発に携わっている、又はその決定権がある方。コンピュータを利用し製品開発にシミュレーションを利用されている方。
- ▶ビジネスマン、団塊の世代（特に投資家層）、学生
- ▶電力関連の新規技術を探しているメーカー
- ▶エネルギー政策に関心のある役人、政治家、企業経営者層を中心に研究者や学生、一般の知識層。
- ▶企業の企画経営部門役員
- ▶海外のお客さま。また邦人でも海外の案件等を検討しているような方
- ▶地熱関係企業、官公庁、一般の方
- ▶技術・開発系の方
- ▶弊社の再生可能エネルギーについての取り組み全般についてご興味いただける方
- ▶できるだけビジネスに直結する顧客層を期待します

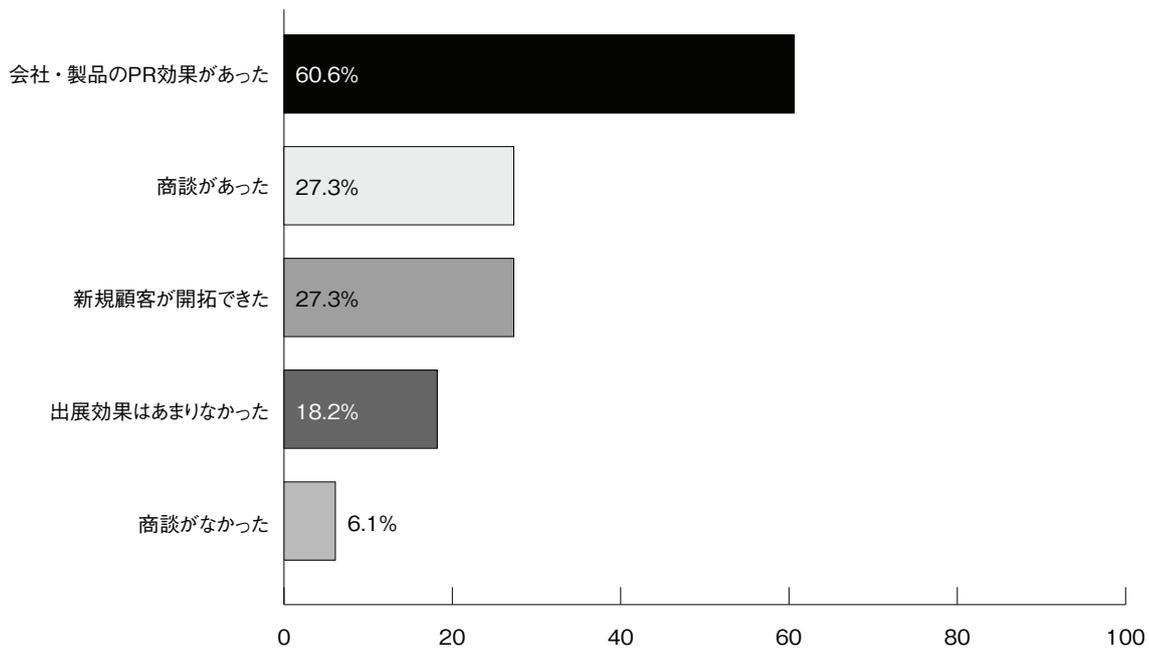
4 貴社の出展目的についてお聞かせください。（複数回答可）



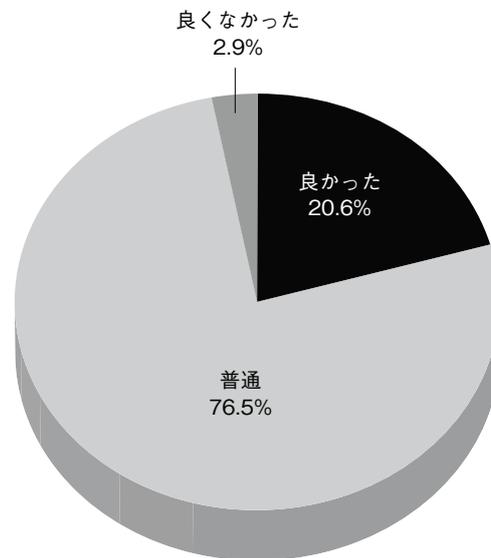
5 4の目的は達成できましたか？



6 現時点での出展効果についての感触はいかがでしたか？（複数回答可）



7 公式 Web サイトについてはいかがでしたか？

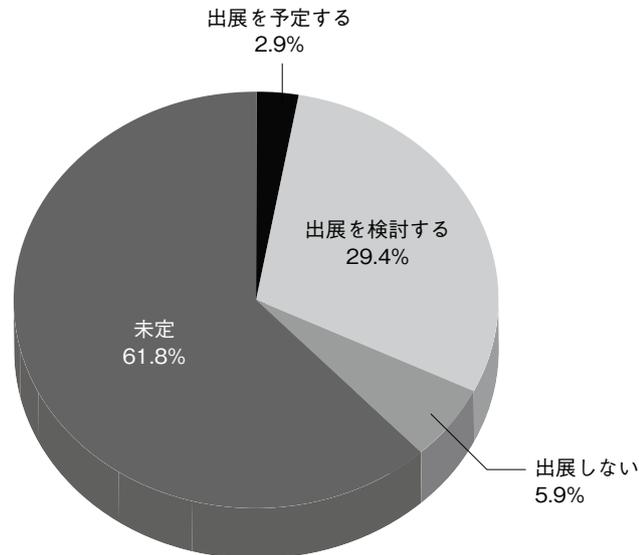


8 公式 Web サイトに関するご意見

- ▶ 各社の出展内容をもう少し詳しくしてはどうか
- ▶ WEBを大いに活用すべき
- ▶ 見やすさの点で改善の余地があるように思えた。
- ▶ セミナーを開催するにあたり、貴団体のHPを使っでの募集をかけたところ、大変効率よく、かつ良質な参加者を集めることができた

9 次回展示会（2011年6月、幕張メッセ）への現在のご出展の予定をお聞かせください。

※展示会終了後、2011年7月27日（水）～29日（金）に変更となりました。



10 その他意見

- ▶事務局にいろいろご配慮いただき、ありがたかったです。
- ▶パシフィコ搬入駐車スペースの狭さに不満あり。
- ▶PV展と併設なので、太陽光・熱関連のお客様が多いのは仕方ないのですが、やはり偏りを感じました。
- ▶ここ最近、イベントでの書籍販売は非常に厳しいところがあるように思いますが、アジア圏の海外のお客様は多少反応が見られるので、そういった方々を来場誘致できるラインがあると嬉しいです。
- ▶小型風力発電関係を充実させてください。
- ▶家庭用PVに偏った支援をしている現状の日本の政策に大いに不満があります。風力発電と大規模事業向け太陽光発電だけに的を絞った展示会開催を希望します。
- ▶今回は横浜での開催。また、PV Japanとの同時開催で期待をしたが、景気の影響、地理的なものが影響しているか分からないが、従来に比べ来場者がかなり少ない。
- ▶環境イベントでは、当会のパンフレットを持って帰る人は、あまり多くないのだが、今回は500部余りが3日目午前でなくなってしまうほどだった。今までにない出展団体で、企業人の関心をひいたのだろうか？

広報活動

1. プレス来場リスト (プレス登録者のみ。 ※一般登録で来場したプレスは除く)

アイティメディア(株)	産経新聞	ナレッジフォア(株)
朝日新聞	産経新聞 フジサンケイビジネスアイ	西日本新聞社
朝日新聞社	産経新聞大阪本社	日刊建設工業新聞社
朝日新聞出版	産報出版(株)	(株)日刊建設通信新聞社
アルム出版社	(株)シアン	(株)日刊工業出版プロダクション
イーディーアール合同会社	(株)CFM出版	日刊工業新聞社
EBS	(株)シーエムシー出版	日刊自動車新聞社
(株)泉放送制作	CQ出版(株)	(株)日経映像
(株)印刷紙業社	CCTV	日経BP社
(株)いんぷつと	CPNA都市計画通信社	(株)日経ラジオ社
AFP通信社	GWOKS	NIKKO-MOOK Project編集委員会
(株)映像館 東京本社	(株)ジーワークス	(株)日報アイ・ビー
(株)映像工房隼	(株)資源総合システム	NIPPON HOSO KYOKAI
eco	時事通信社	ニフティ(株)
eco people	(株)時報社	日本インタビュー新聞社
Edelman	(株)舵社	日本経済新聞
NHK	(株)重化学工業通信社	日本経済新聞社大阪本社
NHK国際放送局	(株)住宅産業新聞社	日本工業出版(株)
NHK報道局経済部	(株)週刊住宅新聞社	(社)日本専門新聞協会会員
エヌビーディー・ジャパン(株)	(株)住宅新報社	(社)日本電気協会新聞部
エネルギージャーナル	(株)潤滑通信社	(社)日本内燃力発電設備協会
(株)エネルギージャーナル社	(株)商工経済新聞社	(株)日本ビジネス出版
(株)エネルギーフォーラム	新華通信社	(株)日本物流新聞社
(株)M&Cメディア・アンド・コミュニケーション	新建新聞社	日本放送協会
(株)燦	(有)新日本流通新聞社	(株)日本屋根経済新聞社
(株)エンジニアリングニュース社	(株)新農林社	(株)日本流通産業新聞社
(株)オーム社	(株)ステラ・コーポレーション	(株)ニュースダイジェスト社
(株)オプトロニクス社	(株)スリーアイパブリケーション	NPGネイチャーアジア・パシフィック
(株)音元出版	(株)政策総合研究所	(株)農経新報社
(株)化学工業日報社	(株)石油化学新聞社	(株)ハマーズ
(株)加工技術研究会	石油ガス・ジャーナル(株)	(株)PI・エディット
(株)ガスエネルギー新聞	(株)石油産業新聞社	(株)ビーオービー
(有)ガスメディア社	(株)セミコンダクタポータル	PV-JOURNAL
(株)ガスレビュー	(株)先端技術情報総合研究所	ファイナンシャルタイムズドイツ版
(株)月刊ガソリンスタンド社	(株)創樹社	フジサンケイ ビジネスアイ
神奈川新聞社	Solar&Energy	(株)フジテレビジョン
(株)ガラス新聞社	(株)ソーラーシステム研究所	(株)不動産経済研究所
カロス出版(株)	(株)ダイヤモンド社	フリーランステクノロジーライター
環境建築新聞社	(有)台湾新聞社	Bloomberg NEWS
(株)環境新聞社	(株)地球環境新聞社	(株)分散型発電情報センター
(株)技術調査会	独立行政法人中小企業基盤整備機構	(株)ベースプレーンワーク
Canon Communications Japan 合同会社	DNDi	ボイックス(株)
一般社団法人共同通信社	Digitimes.	(株)放送出版プランニングセンター
金属産業新聞社	(株)TBSテレビ	(株)MICEジャパン
(株)金融ジャーナル社	(株)テクノアンソエーツ	(株)毎日コミュニケーションズ
月刊「クリーンテクノロジー」	(株)テクノタイムズ社	毎日新聞社
(株)グリーンプロダクション	(株)デジタルアドバンテージ	日刊木材新聞社
グローバルヴィジョン(株)	テックタイムス	(株)メイク・ヴィー
建通新聞社	(株)鉄鋼新聞社	mergermarket
研磨材新報社	テレビ東京	(株)メディアレベル
(株)工業調査会	(株)テレビ東京制作	(株)油業報知新聞社
(株)航空ニュース社	(株)電化新聞社	ユニ通信社
(株)好和社	電気工業新聞社	横浜産業新聞
コーティングメディア	電気新聞	読売新聞大阪本社
CommandE Ltd.	(株)電材流通新聞社	読売新聞東京本社
(株)ザックコーポレーション	(株)電子ジャーナル	(株)リクルート
(株)産業新聞社 東京本社	電波新聞社	(株)リック
(株)産業タイムズ社	週刊電力水素日本	(株)リフォーム産業新聞社
(株)産業タイムズ社 東京本社	(株)投資経済社	ライター編集局
産業とエネルギー社	(株)東洋経済新報社	Cite Group
(株)産業と環境	(株)東洋経済新報社 関西支社	SLOVENSKA TECHNICKA UNIVERZITA
産業報道出版(株)	奈良経済新聞	THOMSON REUTERS

2. 記事 (掲載のご連絡をいただいた媒体のみ)

1) 新聞

・フジサンケイ ビジネスアイ	3月23日、6月22日、6月30日、7月2日
・産経新聞	6月30日
・神奈川新聞	5月13日
・読売新聞	6月5日
・分散型発電新聞	4月15日、7月5日
・農経しんぼう	7月5日
・プラスチック産業資材新聞	7月15日

2) 雑誌等

・月刊ビジネスアイ ENECO	A4判 5月号 (毎月1日発行)
・産業と環境	B5判 7月30日号

3. 広告

1) 新聞

・フジサンケイ ビジネスアイ	5月29日、31日、6月19日、26日、30日
・環境新聞	6月9日発行

2) 雑誌他

・月刊ビジネスアイ ENECO	A4判 4月号 (毎月1日発行)
・機械設計	B5判・1項 6月10日発行
・日経エコロジー	A4判・1項 6月8日発行
・メカトロニクスデザインニュース	B4判・2/6項 6月15日発行

3) メールマガジン

・(株)技術調査会	62,000件 6月24日配信
-----------	-----------------

4. 交通広告

・都営浅草線	中吊り	6月20日～6月26日
・都営三田線	中吊り	6月20日～6月26日
・都営新宿線	中吊り	6月20日～6月26日
・都営大江戸線	中吊り	6月20日～6月26日
・都電	中吊り	6月20日～6月26日
・都バス (全車)	まど上	6月20日～6月26日
・横浜市営地下鉄 (ブルーライン)	中吊り (両面)	6月20日～6月26日

5. WEB 広告

・えきから時刻表	駅指定バナー広告	5月28日～6月25日
・未来材料	バナー広告	4月22日～7月2日

6. 関連展示会での事前PR

下記関連展示会のフジサンケイ ビジネスアイブース、または情報コーナーにおいて来場者に配布した。

会期	展示会名称	会場	入場者数
2009.9.16-18	第11回自動認識総合展	東京ビッグサイト	20,938
2009.9.16-18	2009地球環境保護 土壌・地下水浄化技術展	東京ビッグサイト	22,748
2009.10.21-24	粉体工業展大阪2009	インテックス大阪	12,407
2010.2.18-19	第7回自動認識総合展	マイドームおおさか	3,029
2010.3.3-5	FC EXPO 2010	東京ビッグサイト	80,045

7. 招待状のダイレクトメール

1) 主催者では、来場希望者をはじめ、以下の精選されたリストにより招待状55,051通を発送しました。

主なダイレクトメール発送先

- これまでの来場者
- 各省庁・地方自治体・公共施設
- 共催・協賛団体会員
- 関係機構・団体
- これまでに寄せられている来場希望者
- 企業の環境、エネルギー担当者
- 流通関係
- 建築・設計関係
- ディベロッパー
- 大学・研究機関

2) 出展者へ希望枚数58,965通を配布しました。

8. Web 上での情報公開

5月より来場促進Webページを作成し、出展社一覧、併催イベント、併催セミナーなどを掲載した。ページ内に事前登録を設けた。

9. ポスターの掲示

出展者及び関係団体へ配布

10. メールニュース 計 126,856件

第1回～第4回の来場者および事前登録者、第5回事前登録者に4回メールニュースを送った。

11. プレスリリース

第1回	2010年4月15日
第2回	2010年5月12日
第3回	2010年6月21日

リリース先

- ・経済産業省 資源記者クラブ
- ・経済産業省 新聞記者会ペンクラブ
- ・経済産業団体連合会 記者クラブ
- ・環境省 記者会
- ・筑波研究学園都市 記者会
- ・一般・専門新聞社、各関連専門雑誌社など
- ・前回プレス登録者
- ・Web掲載

12. 記者会見の実施

2010年5月12日	横浜市舎
2010年6月21日	NEDO日比谷オフィス広報センター

今回はパシフィック横浜で再生可能エネルギー2010国際会議(6月27日~7月2日開催)と併設開催します!!

再生可能エネルギー世界フェア 2010

入場無料

第5回新エネルギー世界展示会
RENEWABLE ENERGY 2010 INTERNATIONAL EXHIBITION

2010年6月30日(水)~7月2日(金) 10:00~17:00

会場: パシフィック横浜 主催: 再生可能エネルギー協議会

共催: 国際太陽エネルギー学会、独立行政法人新エネルギー産業技術総合開発機構、独立行政法人産業技術総合研究所、財団法人新エネルギー財団、日本太陽エネルギー学会、日本風力エネルギー協会、財団法人名古屋産業科学研究所

協カ: フジサンケイ ビジネスアイ

同時開催: ●PVJapan 2010 (共催: 太陽光発電協会、SEM)

再生可能エネルギー協議会 (JCRE)

本フェアは再生可能エネルギーに関する最新の技術・製品・サービス・周辺機器・情報を紹介し、地球環境保全に貢献する製品・技術・サービス・周辺機器・情報を紹介する。また、再生可能エネルギーに関する最新の技術・製品・サービス・周辺機器・情報を紹介する。また、再生可能エネルギーに関する最新の技術・製品・サービス・周辺機器・情報を紹介する。

出展内容

新エネルギーをはじめ、エネルギーと環境の全分野において、地球環境保全に貢献する製品・技術・サービス・周辺機器・情報を紹介

政策
(新技術、製品、サービス)

風力
(大規模、小規模、洋上)

地熱エネルギー

太陽光発電
(太陽電池、システム、HEVなど)

バイオマス
(木質、廃棄物、付随物による発電、熱利用、バイオエタノールなど)

新電力システム
(送電線、配電線、電力貯蔵システム、スマートグリッドなど)

太陽熱利用

水素・燃料電池

省エネルギー・熱利用
(LED照明、省エネ家電、省エネ空調機、省エネ照明器具など)

省エネルギー建築

海洋エネルギー

中小水力、未利用エネルギー

●温度差利用 ●コージェネレーション ●クリーンエネルギー自動車 ●送電 ●通信 ●省水熱利用 ●環境保全・計測・測定・分析 ●環境金融関連商品、支援制度 ●NPO、NGO その他

お申込・お問合せ **新エネルギー世界展示会事務局**
(株)シー・エス・ティ 〒101-0048 東京都千代田区神田町2-2-2 大森ビル4F
TEL: 03-5297-8855 FAX: 03-5294-0909 E-mail: info@renewableenergy.jp

<http://www.renewableenergy.jp>

▲全5段広告

開催概要 | 第5回新エネルギー世界展示会 RENEWABLE ENERGY 2010 INTERNATIONAL EXHIBITION

<http://www.renewableenergy.jp/top.html>

よく見るページ ▶ はじめよう 最新ニュース

開催概要 | 第5回新エネルギー世界展示会

今回はパシフィック横浜で再生可能エネルギー2010国際会議(6月27日~7月2日開催)と併設開催します。

再生可能エネルギー世界フェア 2010

第5回新エネルギー世界展示会
RENEWABLE ENERGY 2010 INTERNATIONAL EXHIBITION

2010年6月30日(水)~7月2日(金) 10:00~17:00

●会場: パシフィック横浜 ●同時開催: PVJapan 2010
●主催: 再生可能エネルギー協議会

再生可能エネルギー世界フェア来場者数 ご来場ありがとうございました。

日付	来場者数	天気
6月28日(月)~7月2日(金)	国際会議 3,580	
6月30日(水)	12,189	曇り
7月1日(木)	13,378	晴れ時々曇り
7月2日(金)	15,143	晴れ
合計	44,290	

※PVJapan 2010、第5回新エネルギー世界展示会、再生可能エネルギー2010国際会議の合計来場者数
再生可能エネルギー世界フェア 出展社数 450社・団体920小間(内海外67社)

開催概要

名称: RENEWABLE ENERGY 2010 INTERNATIONAL EXHIBITION 第5回新エネルギー世界展示会

日程: 2010年 6月30日(水)~7月2日(金) 10:00~17:00

会場: パシフィック横浜

主催: 再生可能エネルギー協議会

共催: 国際太陽エネルギー学会、独立行政法人新エネルギー産業技術総合開発機構、独立行政法人産業技術総合研究所、財団法人新エネルギー財団、日本太陽エネルギー学会、日本風力エネルギー協会、財団法人名古屋産業科学研究所

後援: 経済産業省、環境省、国土交通省、農林水産省、文部科学省、総務省、内閣府、東京都、横浜市

協賛: 電気事業者連合会、社団法人日本電機工業会、社団法人日本自動車工業会、石油連盟、社団法人日本ガス協会、社団法人日本鉄鋼連盟、社団法人日本建設業団体連合会、社団法人電子情報技術産業協会、一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会、社団法人日本水道工業団体連合会、社団法人日本機械学会、社団法人応用物理学会、社団法人電気学会、社団法人日本化学会、社団法人日本建築学会、社団法人空気調和・衛生工学会、社団法人電気化学会、社団法人化学工学会、社団法人日本エネルギー学会、社団法人日本半導体製造装置協会、独立行政法人国立環境研究所、独立行政法人海洋研究開発機構、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人海上技術安全研究所、独立行政法人港湾空港技術研究所、独立行政法人国際森林水産業研究センター、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構、財団法人高橋産業経済研究財団、財団法人省エネルギー財団、財団法人エネルギー総合開発財団

再生可能エネルギー2010 国際会議

PVJapan 2010

▲Web日本語 Top

次回開催決定!!

あつまれ★今を見つめて明日を変えよう!
再生可能エネルギー世界フェア
2011



第6回再生可能エネルギー世界展示会 (新エネルギー世界展示会より改称)

RENEWABLE ENERGY 2011 EXHIBITION / The 6th



政策
Policy



太陽光発電
Photovoltaic



太陽熱利用
Solar Thermal
Utilization



省エネルギー建築
Low Energy
Architecture



風力
Wind Energy



バイオマス
Biomass Utilization
& Conversion



水素・燃料電池
Hydrogen &
Fuel Cell



海洋エネルギー
Marine Energy



地熱エネルギー
Geothermal
Energy



新電力システム
Advanced Power
System



省エネルギー・熱利用
Heat Utilization &
Energy Efficiency



中小水力・未利用エネルギー
Small Hydro &
Non-Conventional Energy

2011年7月27日(水)~29日(金)
10:00~17:00

特設 | 電池・電力貯蔵・輸送システム展

会場 幕張メッセ [国際展示場 / 国際会議場]

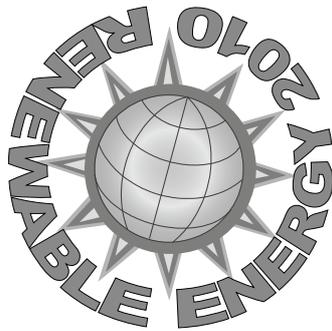
主催 再生可能エネルギー協議会

同時開催: ●●●● 太陽光発電に関する総合イベント
●PVJapan 2011 (共同主催: 太陽光発電協会、SEMI)

新エネルギー世界展示会 事務局

(株)シー・エヌ・ティ
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2-2 大森ビル
TEL: 03-5297-8855 FAX: 03-5294-0909 E-mail: info@renewableenergy.jp

<http://www.renewableenergy.jp>



主催：再生可能エネルギー協議会

第5回新エネルギー世界展示会 事務局

(株)シー・エヌ・ティ 〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2-2 大森ビル
Tel.03-5297-8855 Fax.03-5294-0909 E-mail:info@renewableenergy.jp